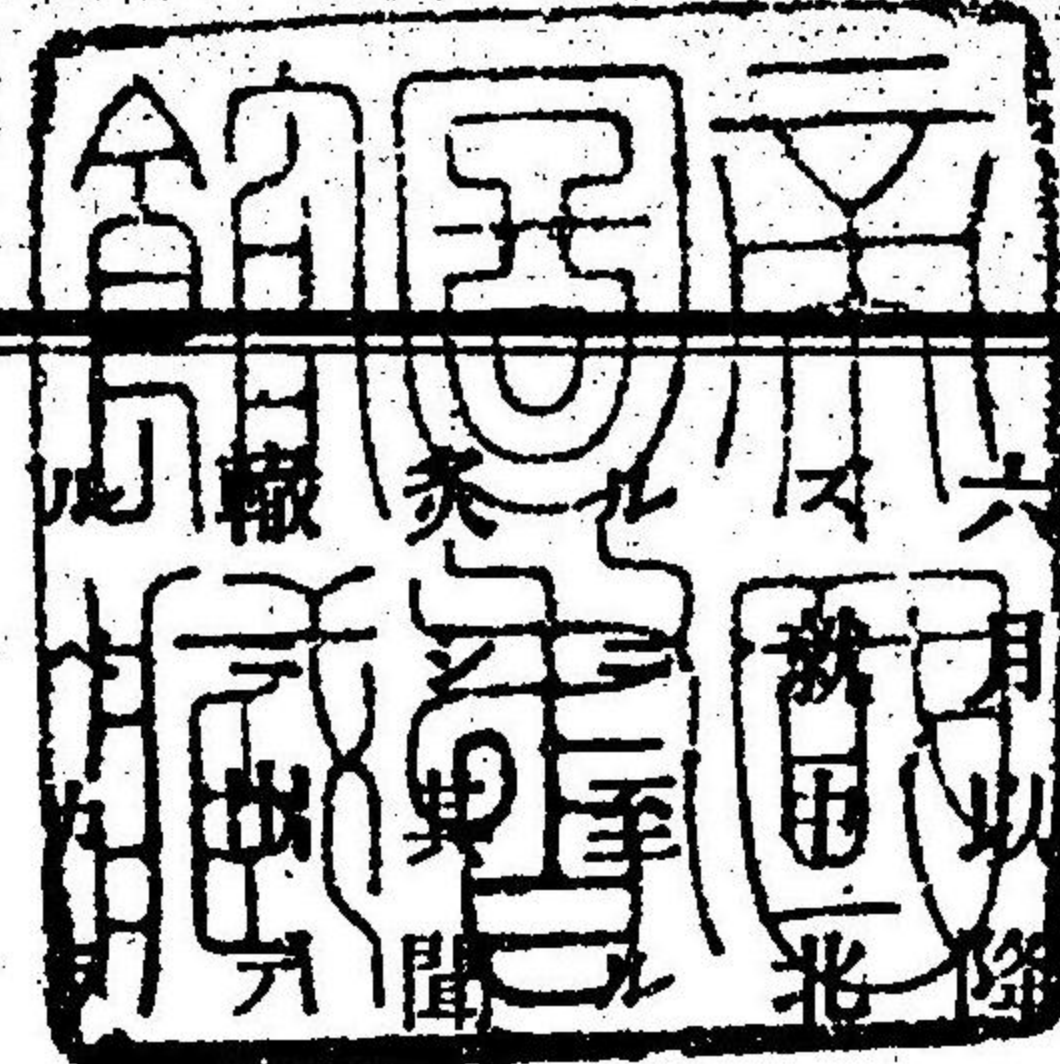


1933

2929
1894

No. 986/IV



序言

露領絶東ニ於ケル氣運ヲ一變スベキ悉比利大鐵道
 ス大船渠ノ起工ハ漸ク本邦商工業家ノ睡夢ヲ攪破シ本年五
 六月以陸地地方有志者ノ如キハ特ニ瀛船ヲ備ヒ遊行ヲ企ツ
 其奮發想フベシ當時余該地ニ在リ一々來航者ニ親
 知セント欲スルモノヲ見ルニ尋常一様ナル概子同
 來航者ガ既ニ本邦ニ在ルノ日ニ於テ之ヲ了知セザ
 ザルノ事項多シ故ニ短縮ナル滯泊時日中只ダ一般
 表面的ノ觀察ニノミ汲々トシテ最モ緊要ナル各自專攻ノ業
 務ニ關シ充分ナル調査ヲ遂ゲシモノ少ナシ是レ畢竟本邦ニ
 於テ未ダ該地方ノ近況ヲ詳述セシ書ナキノ致ス處之レヲ遺
 憾トスル久シ本年九月余不圖モ米國ニ轉任ヲ命セラレ行李
 勿々浦潮斯德ヲ去ルノ不得已ニ遭遇セリ回顧スレバ昨秋渡
 航來早已ニ一春秋ヲ經過スト雖モ更ニ一事ノ成ルナク一物



ノ見ルベキモノナシ只ダ滯留中見聞セシ事項ノ手記ニ存ス
ルモノト來航者ノ需ニ應ジ取調ベシ條件ノ腦裏ニ記スルモ
ノトアリ今ヤ歸朝ノ途次船中ニ於テ彼此考量細大摘錄漸ク
一小冊子ト爲ル即チ「浦潮斯德」ト題シ以テ歸朝ノ土産ニ代ユ
然レモ素ト是レ旅中倥偬ノ際ニ記述セシモノナレバ材料ノ
撰擇及ヒ配置等ニ至テハ固ヨリ其當ヲ失スルモノナシトセ
ズ宜シク讀者ノ指教ヲ待テ訂正スル處アラン只ダ冀クハ將
來該地方ニ渡航スルノ人士豫メ此書ヲ緝キ全般ノ觀念ヲ了
シ然シテ後彼地ニ渡リ各自專攻ノ事項ニ就キ討究スルアラ
ンニハ自カラ條緒井然蓋シ望洋ノ歎ナキニ庶幾カラシム

明治二十四年十月郵船東京丸ニ於テ

著者識

目次

序言

初丁

第一 沿革 一丁ヨリ四丁ニ至ル

浦潮斯德往時ノ景狀、發見及ヒ占領、公正占領、開市ノ概略、移住ノ嚆矢、電信及ヒ金庫
ノ設置、鎮守府ノ移轉、市制ノ實施、義勇艦隊ノ開航、二十五年祭、軍港基礎ノ確定、皇
太子來航ニ隨伴セシ諸件

第二 地理 四丁ヨリ七丁ニ至ル

浦潮斯德ノ地位、市街、港灣、丘陵、「ムラウ井ヨーフ、アムールスキー」半島、樹木、河流、
地質及ヒ農業、石灰、村落、露西亞島

第三 氣候 八丁ヨリ十丁ニ至ル

寒氣酷烈ナル原因、夏、秋、冬、春季、氣候ニ基ク諸現象

第四 行政 十丁ヨリ十二丁ニ至ル

平務知事、行政上ノ關係、悉比利政區、總督知事

第五 陸軍 十二丁ヨリ十四丁ニ至ル

陸軍、砲臺、砲種、浦潮斯德屯在軍兵

第六 海軍 十五丁ヨリ十六丁ニ至ル

鎮守府、太平洋及ヒ悉比利兩艦隊、船艦表、水雷船及ヒ廢艦、浮船渠、大船渠

第七 戶口 十七丁ヨリ二十二丁ニ至ル

戶口増加ノ原因、千八百八十六年ノ戶口、現時戶口ノ概數、一時來航スル者、兵數ノ増加、傳染病ノ影響、日本人ノ數、黑龍政區人口

第八 職業 二十二丁ヨリ二十五丁ニ至ル

製粉業、蔬菜、牧畜、獸獵、水産、雜業、官立製造場、私立製造場、職工、日本職工、婢僕

第九 教育 二十六丁ヨリ二十八丁ニ至ル

教育ノ程度、各種學校

第十 衛生 二十八丁ヨリ三十一丁ニ至ル

氣候ト病氣ノ關係、病症、家屋、井戸、病院、藥局、醫師、日本醫師ノ開業、衛生事務ノ區分

第十一 浦潮斯德市ノ歲出入 三十一丁ヨリ三十三丁ニ至ル

歲入、歲入細目、歲出細目比較、費途ノ多少

第十二 警察 三十三丁ヨリ三十五丁ニ至ル

警察ノ組織及ヒ經費、警務ノ整否、警邏區

第十三 消防 三十四丁ヨリ三十五丁ニ至ル

消防ノ必要、消防隊備付ノ器械及ヒ其組織、煙筒掃除、火災ノ煤介物

第十四 郵便電信 三十五丁ヨリ三十七丁ニ至ル

歐露トノ郵便交通、郵稅、郵便事務、郵便ノ休日、電信事務、電信料、軍用電信及ヒ電話

第十五 航通及運搬 三十七丁ヨリ四十二丁ニ至ル

航海期節、外國商船、露國商船、近海ノ交通、支那舢舨、解賃、市中往復ノ馬車、馬車賃、市内ノ運搬者、川水配達、驛傳馬車

第十六 鐵道 四十二丁ヨリ四十三丁ニ至ル

鐵道布設ノ建議者、線路ノ決定、工事ノ着手、布設案

第十七 義勇艦隊 四十三丁ヨリ四十四丁ニ至ル

義勇艦隊ノ設立及ヒ職務、政府ノ保護金、船舶、利益

第十八 貿易 四十四丁ヨリ五十丁ニ至ル

本港貿易ノ特質、輸入、輸出、外國商店ノ方略、日本商、日本商經營ノ輸入品、商業

ノ現況、商賣ノ方法、本港貿易ノ定義、將來ノ冀望

第十九 諸稅率 五十丁ヨリ五十五丁ニ至ル

徵稅ノ寬裕、輸入稅率、漁業稅、船舶出入諸稅、不動産稅及ヒ商業稅、市場借店料及

ヒ雜拂料、収稅局收入年額

第二十 物價ト生計 五十五丁ヨリ五十九丁ニ至ル

物價ノ高低、生計上ノ便利、生計上ノ不便、市民保護ノ法

第二十一 協會 五十九丁ヨリ六十丁ニ至ル

黑龍協會、演劇協會、音樂協會、遊獵會、慈善會、赤十字社及ヒ水難救濟會

第二十二 俱樂部 六十丁ヨリ六十二丁ニ至ル

海軍俱樂部、陸軍俱樂部、番頭俱樂部

第二十三 演劇ト馬戲 六十二丁

劇場、入場料、馬戲

第二十四 旅館ト料理店 六十二丁ヨリ六十三丁ニ至ル

旅館ノ欠乏、

第二十五 浴場及海水浴場 六十四丁

暖爐ノ種類、海水浴場

附録

南烏蘇里地方諸村落、戸口及ビ里程

六十五丁

從浦潮斯德至東悉比利諸港及ビ航程

六十九丁

同 至東洋諸港航程

七十丁

同 至東悉比利著名都邑里程

全丁

日露度量衡對照

七十一丁

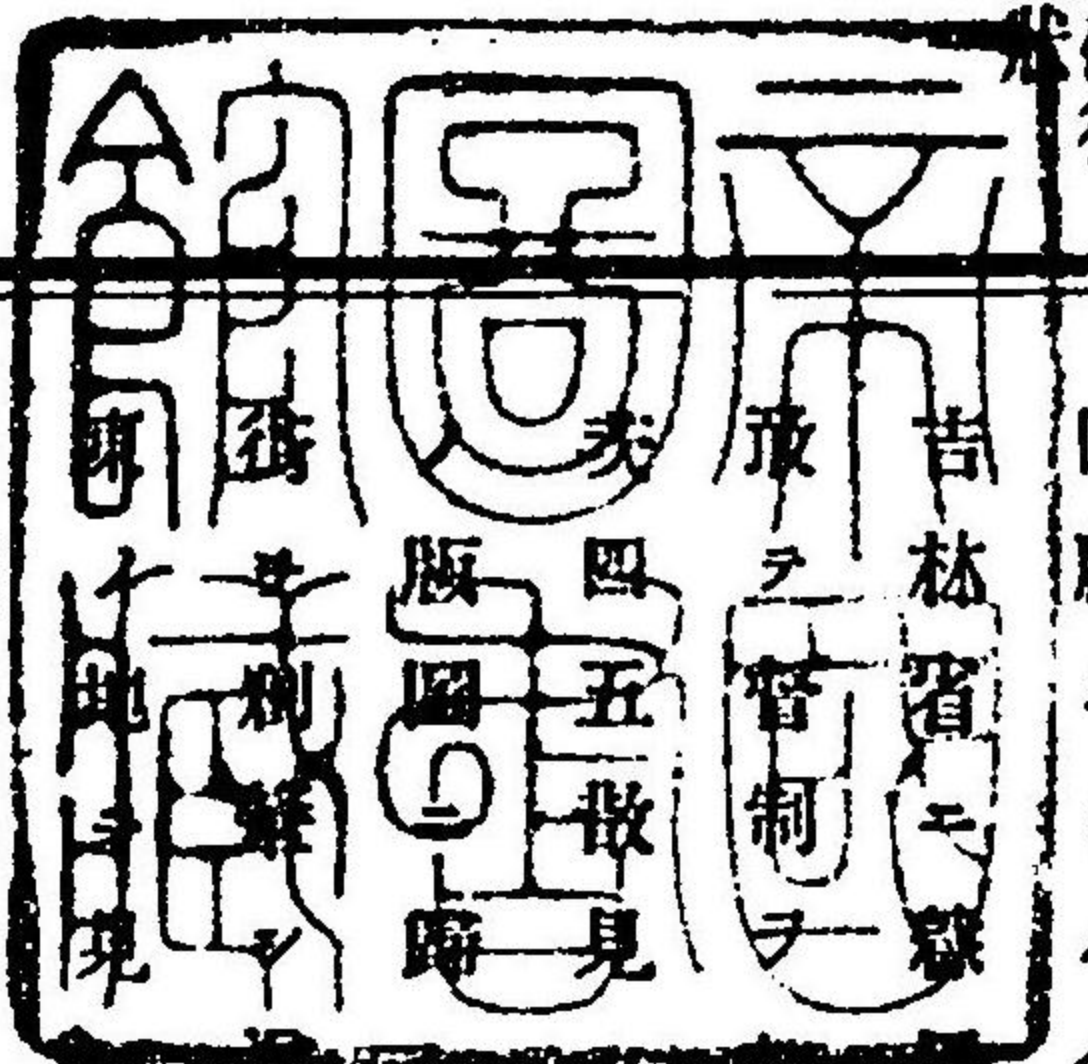
浦潮斯德地圖

冊尾

「浦潮斯德」

○第一 沿革

○浦潮斯德往時ノ景



回顧スレバ今ヲ距ル三十年前ニ在リテハ浦潮斯德ハ海參崴ト稱シ清領滿州吉林省ニ屬セル邊陲ノ一寒地ニ過ギザリシヲ以テ清國ハ恰モ之ヲ放棄シ取テ管制ヲ加ヘザリシモノ、如シ其當時ニ在テハ港岸寂寞總カニ滿人ノ茅舎ニシテ樹木鬱蒼時々勇猪猛虎ノ跳躍スルヲ見ルノミ然ルニ一旦露國ノシヨリ勿々タル歲月ト共ニ進化シ海陸兵備ノ整頓ト共ニ一市ノ大反高館ノ燦々トシテ駢列シ殆ンド歐洲ノ偉觀ヲ亞細亞絶ニ至レリ願フニ桑田變シテ海ト爲リ松柏摧ケテ薪ト爲ル世態ノ變遷迅速ナル光景ハ寔ニ浦潮斯德ニ於テ之ヲ見ル

○發見及占領

浦潮斯德ノ航海者ニ知ラレタルハ千八百五十六年英船「ウインチエスマー」號ノ之ヲ發見シ「メイ」ト稱セシニ始ル爾後千八百五十九年海軍大尉「シエフ子ル」氏海軍風帆船ニ搭シ此港ニ來リシモ未ダ以テ之ヲ占領スルニ至ラザリシガ翌六十年運送船「マンヂユール」號ガ東悉比利線列第四大隊ノ兵卒九十六名ヲ搭載シ來リ始メテ之ヲ占領シ衛戍ヲ置ケリ是ニ於テカ露國ハ更ニ海軍大尉「エダレルセル」氏ヲシテ軍艦「グリデ」號ニ搭シ衛戍ノ聲援トシテ來航セシメ遂ニ本港ニ於テ歳ヲ越シ兵營ト寺院ヲ建築セリ

○公正占領

斯クテ露國ハ千八百六十年ヲ以テ本港ヲ占領セリト雖モ未ダ以テ公正ノ占

○開市ノ概略

領ト稱スベカラザリシガ當時清國ガ恰モ英佛同盟軍ノ爲メ蹂躪セラレタルノ際ナリシカバ露國ハ巧ミニモ此好機ニ乗ジ「イグナチーフ」將軍ヲ特命全權大使トナシ清國恭親王ト商議セシムルトコロアリテ遂ニ本港ヲシテ露國ノ版圖タルヲ公認セシメタリ是レ實ニ千八百六十一年ノ冬ナリキ

露國ハ既ニ本港ヲ占領セシヨリ銳意開市ノ方針ヲ把リ千八百六十二年ニ至リ本港ハ早クモ衛戍駐在地タルノ名稱ヲ脱却シ更ニ需要品ノ輸入ヲ補助スベキ無稅港トナレリ續テ千八百六十四年海軍少佐「スコット」氏ヲ彼得大帝灣諸港ノ長官ニ補シ本港ニ町役所ヲ創設シ町長ヲ置ケリ而シテ千八百六十五年ニ悉比利艦隊ノ船艦ヲシテ本港ニ往來セシメ兵員及ビ糧食ノ運搬ニ從事セシメヨリ此等船艦ニ必需ナル工作ニ忙シク茲ニ海軍工作場ヲ置ケリ是ヨリ本港ニ移住スルモノ陸續踵ヲ接セリ是寔ニ移住民ヲ導キタル嚆矢トス

浦潮斯德ノ繁榮歲月ヲ逐フテ進ミ移住民ノ數益々増殖スルニ從ヒ交通ト金融ノ圓滑ヲ計ルベキ必要ヲ生ジ千八百七十一年電信局及ビ金庫ヲ開設セリ（金庫取扱ノ金額ハ初年拾七萬六千〇八拾留ナリシモ期年ナラズニ千八百七十二年ニ至リ勅令ヲ以テ「ニコラエフスク」ヨリ鎮守府ヲ移シガ後千八百七十二年ニ至リ勅令ヲ以テ「ニコラエフスク」ヨリ鎮守府ヲ本港ニ移シ遂カニ繁盛ノ度ヲ進メ人口モ非常ニ増殖セシヨリ遂ニ千八百七十六年浦潮斯德ヲ市トシテ「シムル」ノ令アリ即チ市制ヲ實施シ益々市内ノ秩序

○移住ノ嚆矢

○電信局及金庫ノ設置

○鎮守府ノ移轉

○市制ノ實施

○義勇艦隊ノ開航

○二十五年祭

ヲ整理シテ將來ノ計畫ヲ定メ而シテ千八百八十七年ヨリ砲臺及ビ要塞ノ築造ヲ始ムル等百般ノ事業其緒ニ就ケリ然レモ本港ハ素ト邊隅ニ僻在シ歐露ト氣息相通ゼズ百事不便ヲ感ズルヲ多キヲ以テ千八百八十年ヨリ義勇艦隊ノ船舶ヲシテ本國通商ノ要港タル「病德沙」ヨリ直接ノ航路ヲ開キ本國ノ貨物ヲ遠ク輸送セシム此一事ハ實ニ本港商工業及ビ軍事上ニ莫大ノ利便ト裨益ヲ與ヘ本港發達ノ度ヲシテ一層迅速ナラシメタリ爾後千八百八十三年一月ニ地方裁判所ヲ創設シ同年四月浦潮每週新聞ヲ發兌ス

千八百八十五年ハ寔ニ本港開始ノ二十五年ニ遭遇セシヲ以テ市民ハ二十五年祭ヲ執行シ其紀念ト祝意ヲ表シタルノ年也同年ニハ人口軍人五千人ヲ合セテ一萬〇五百人トナリ貿易通商ノ趨勢ハ將來ニ隆盛ナルベキ充分ノ冀望ヲ示セリ入港船舶ノ數七十隻、噸數六萬噸、搭載貨物ノ價格四百五十拾萬留ニ達シ而シテ市内私有建物五百七十棟、商店大小百〇四、旅館料理店等ノ建物四十一ノ多キニ至レリ

要スルニ浦潮斯德ハ未ダ創肇ノ中途ニ在リト雖モ既往開進ノ迅速ナル將來ノ進歩ヲシテ殆ンド其底止スルトコロヲ知ラザラシムルモノアリ惟フニ千八百八十一年ニ於テ本港ノ鎮守府ヲ「ボシェント」若クハ「オリガ」灣ニ移スノ議ナク一時本港住民ノ恐懼ヲ惹キ土着ノ精神ヲ薄クセザラシメタランニハ本港ノ發達駭々平トシテ中斷スルヲナキヲ以テ恐ラク吾人ガ今日目撃スル繁

○軍港基礎ノ確立

○皇太子來航ニ同伴スル諸件

昌ヨリハ寧ロ一層ノ旺盛ヲ賤見セシラン然ルニ此議遂ニ行ハレズシテ千八百八十九年ニ於テ露國ガ絶東ニ對スルノ國是ヲ確定シ邦土ノ威嚴ヲ保持スルニ足ルベキ砲臺ヲ修築シ太平洋艦隊ノ勢力ヲ増加シ益々本港ノ地位ト將來ノ冀望ヲ鞏固ニセリ殊ニ本年五月ニハ未來ノ全露西亞皇帝陛下タル皇太子ニコラス殿下萬里ノ波濤ヲ凌ギ本港ニ巡航セラレ歐露ニモ比類稀ナル大船渠ノ基礎式ト宇内唯一ノ悉比利大鐵道ノ起工式ニ親臨セラレ瘴癘ノ氣無人ノ境ヲ厭ハセラレズ遠途恙ナク帝都ニ還御セラレタリ是レ露領絶東ニ於ケル開闢未曾有ノ盛典ニシテ將來ニ期スルノ宏圖基ダ大ナルヲ知ル

○第二 地理付「ムラウ井ヨーフ、アムールスキー」半島及露西亞島

浦湖斯德ハ北緯四十三度六分五十一秒東經百三十一度五十四分廿一秒ニ位レ彼得大帝灣ニ突出スル「ムラウ井ヨーフ、アムールスキー」半島ノ南端金角港ト稱スル港灣ノ西北岸及ヒ黑龍灣ノ東岸ニ在リ市街ノ延長ハ七露里ニ亘リ丘陵ノ半腹ヲ斜下シテ海岸ニ達スル狹隘ナル地ヲ占ムルヲ以テ起伏高低一ナラズ故ニ驟雨一度來レバ街路ハ恰モ澗流ノ觀ヲ呈スト雖雨過ダレバ忽チ乾燥ス是レ地勢ノ斜下ニシテ排水ニ宜ロキト溝渠及ヒ窺管ノ港灣ニ通ズルノ構製アルニ依ル市街ノ數總計五十八「スウエトランスカヤ」街ヲ主街トシ外ニ小路四、廣場四及ヒ郭外ノ市街四アリ而シテ家屋ハ各處ニ散在シテ或ハ山麓ニ或ハ阪路ニ或ハ山崖ニ在ルガ故ニ新ニ市區ノ設計ヲ爲ス頗ル困難ナリ

○港灣

○丘陵

港灣ハ即チ金角港ニシテ西「シコタ」半島ニ割セラレ東「ゴウドピン」半島ニ扼セラレ深ク東北ニ突入ス港内深サ十五「サイジエン」乃至九「サイジエン」灣奥ノ最モ淺キ處尙ホ四「サイジエン」アリ延長二千八百五十「サイジエン」巾四百「サイジエン」ノ廣潤ナル長港ニシテ長サ貳百四十五「フヒート」ノ船舶五十五艘ヲ同時ニ繫泊シ得ベク水底モ亦タ淤泥ニシテ錨爪ニ適ス而シテ市街ヲ擁スル丘陵ハ南岸「ゴウドピン」半島ヨリ東北ニ馳スル高キモノヲ「プローチカ」山「高サ三百」ト云ヒ西北ヲ圍繞スル高キモノヲ「ボリスラ」フスカヤ山「七百二十」ト云ヒ「フヒート」山「六百五十二」ト云ヒ市街ノ中央ニ突起スルモノヲ「アレキセイ」山ト云ヒ又「シコタ」半島ニ在リテ之ト對峙スルモノヲ「セミヨ」ノフ山「二百七十八」ト云フ

○樹木

「ムラウ井ヨーフ、アムールスキー」半島ハ西黑龍灣ニ枕シ東烏蘇里灣ニ瀕シ悉比利大陸ノ東南ヨリ彼得大帝灣内ニ突出スルコト三十露里「ボスホル」海峽ヲ隔テ、露西亞島ト相對シ其ノ面積三百方露里ヲ占ム元來此半島タル樹木ニ富ミ船舶及ヒ家屋ノ築材ニ乏シカラザリシモ浦湖斯德開始已降海陸軍及ヒ市民ノ需要ニ供スルガ爲メ許多ノ木材ヲ採伐シ今ヤ本港ヲ距ル五露里以内ニ於テハ殆ンド奇木ヲ觀ル能ハザルノミナラズ「リヤンチ」河アリ黑龍灣ニ至ルノ間ニ於テモ大ニ濫伐セラレタリ其他ノ場處ニ於テハ猶ホ樹木多シ其重ナルモノハ胡桃、松、柏、楡、「コルク」樹及ヒ樺等ニシテ此等ノ樹木ハ概テ屈繞

○河流

レ且ツ空洞ヲ有スルモノ多ク他ノ同緯度地方ノ産品ニ比スレバ木質稍ヤ劣
 等ナルモノ、如ク
 全半島八分ノ一ハ沼澤若クハ卑濕ノ地ニシテ河流モ亦多シ其最大ナルモ
 ノチ「リヤンチ」河ト云ヒ河口ヲ湖ルニ露里間舟楫ヲ通ズルヲ得之ニ次グモ
 ノチ「セダン」河ト云フ此二河ノ泉源及ビ沿岸ノ地ハ樹木多キヲ以テ材木及
 ビ薪ヲ獲送スルノ便アリ又浦湖ヲ距ル三路里ニシテ一番川アリ五露里ニシ
 テ二番川アリ其近傍ニ家畜檢疫所アリ此諸川ハ毎年秋季ニ至レバ鮮魚海中
 ヲリ上リ其漁獲少ナカラズ
 半島ノ地質ハ粘土ニシテ處々巖石多キ場處ナキニアラズト雖モ一般ニ農業
 牧畜ニ適スル沃饒ノ地多シ然レモ農業ハ未ダ旺盛ニ至ラズ本港ヲ距ル六露
 里ノ處ニ葡萄園アリ土産ノ野生葡萄及ビ歐露南部并ニ米國產葡萄ノ培植
 ニ從事ス其結果頗ル好ク將來ノ進歩大ニ期スベキモノアリ「セダン」河及ヒ
 「リヤンチ」河ノ沿岸并ニ北方黑龍灣ニ瀕スルノ地ハ頗ル耕耘ニ適シ村落ヲ
 設クルニ宜シト雖ドモ移住民ノ稀少ナルハ最モ露人ノ遺憾トスル處ナリ今
 日移住民全群ノ趨向ハ支那人ガ既ニ耕作セシ地カ否ラザレバ他ノ廣濶ニシ
 テ開拓ニ便利ナル地ヲ求メント企望スルモノ多シ蓋シ「リヤンチ」河ヨリ「ウ
 グロ」ウオニ至ルノ沃地ト雖モ之ニ移住セントセバ先ツ荆棘ヲ變リ岩石
 ヲ碎キ沼澤ヲ埋ムル等ノ困難アルニ依ルベレ故ニ半島中穀物ハ絶テ産出ナ

○地質及農業

○石灰

○村落

○ルースキ

ク只ダ穀カニ蔬菜圃アルモ區域甚ダ狹隘ニシテ隆盛ナラズ
 烏蘇里灣岸ナル「タワイザ」河畔ニハ多ク石灰石ヲ産レ本港ノ需要ニ供スル石
 灰ハ概テ此地ノ産出ニ係ル茲ニ定住スル支那人ハ夏間石灰ノ燒製ニ從事シ
 冬季ハ材木及ビ薪材ヲ採伐ス又黑龍灣ノ沿岸ハ建築用ノ石材ニ富ミ「クラ
 スヌイ」岬ニハ花崗石ヲ産ス
 全半島住民ノ過半ハ本港ニ在リ其他ハ各處ニ散在スルノミ浦湖ヲ距ル三路
 里ナル一番川ニ一小部落アリ是ハ囚徒ノ未ダ刑期ヲ終ラザルモノ、爲メ監
 獄ニ代用スルモノニシテ海軍建築部ノ監督ニ屬シ重ニ官府ノ工事ニ服役シ
 且ツ雪隠掃除等ノ賤務ニ馳使セラル又タ此處ニ麥酒釀造所アリテ工夫凡ソ
 二十人許之ニ定住ス其他黑龍灣岸ナル「リヤンチ」河及ヒ「セダン」河ノ近傍
 ニ各一個ノ小部落アリ而シテ烏蘇里灣岸ナル「タワイザ」河畔ニ支那人ノ棲息
 スルアルノミ
 露西亞島ハ浦湖斯德ヲ距ル六露里ニシテ面積百十方露里ヲ占ム全島樹木ニ
 富ミ溪流多ク土壤一般ニ沃饒ナリ本島ノ人口ハ東悉比利線列第二大隊ヲ除
 ケバ甚ダ少シ支那人ノ茅屋八十戸冬季ハ糞カニ三百人餘住居スルノミナレ
 且夏季ニ至レバ千人ニ増加ス皆ナ海參、蟹及ビ蝦ノ漁獲ニ從事シ且ツ蔬菜ヲ
 栽培シ玉菜、馬鈴薯、胡蘿蔔、葱、大根、黃瓜等ヲ浦湖斯德ニ輸送ス又大麥、燕麥、黍、玉
 蜀黍等モ澁霧ノ多キニ拘ハラズ充分ニ成熟ス

○寒氣ノ酷烈
ナル原因

○第三 氣候

○夏

浦潮斯德ハ伊國羅馬ト殆ソド緯度ヲ同フシ威尼斯、シエネワ、未蘭等ノ諸府ニ比スレバ尙ホ南方ニ位ス故ニ地理上ノ位置ヨリ論ズレバ氣候頗ル温暖ナルベキニ實際之ニ反スル所以ノモノハ全ク日本海ニ瀕スル沿海州一休ノ地ハ南洋ヨリ來ル温暖ナル黒潮ノ影響ヲ蒙ラズシテ單ニ北氷洋ヨリ注流シ來ル寒冷ナル潮流ニ侵潤サレ爲メニ浦潮斯德ノ氣候ヲシテ酷烈ナラシムルニ豫想ノ外ニ出デレム

○秋

夏季ニ在テハ南方ヨリ吹來ル暖風ガ途中寒冷ナル潮流ノ上ヲ經過スルヲ以テ空氣中ニ包含スル水蒸氣ハ爲メニ収縮シテ或ハ雨ト化シ或ハ霧ニ變ジ當地方ノ空氣ヲ濕潤スルヲ甚ダ大ナリ此季節ニ至レバ浦潮斯德中高爽ノ地位ヲ占メ最モ乾燥ナリト稱スル家屋ト雖尙之ヲ感ゼザルモノナシ且ツ各種ノ物品ハ悉ク黴菌ヲ蒸生シ屋內ノ用材ハ膨脹シ金屬ハ錆ヲ生シ煙草ハ濕フテ其味ヲ失ヒ飲料水ハ雨水侵入ノ爲メ汚濁スル等枚擧スベカラズ之ヲ要スルニ夏日ハ晴天ヲ見ルヲ稀ニシテ雨霧ニ掩ハル、多シ加フルニ息苦ク日影ニ裝置スル寒暖計華氏八十六七度ニ昇騰スルヲ往々アリ秋ハ一年中最モ良好ナル季節ニシテ暑氣酷烈ナラズ涼風時々來リテ心胸ヲ快暢ナラシム概スルニ天氣清明空氣新鮮ニシテ温度ノ昇降ニ劇變ナシ冬ハ晴天連續スルモ凛烈ナル寒風常ニ絶ヘズ只ダ少シク温度ヲ感ズルノ日ハ降雪ヲ見ルノ微ト

○冬

知ルベシ而シテ彼ノ寒風ハ強力ヲ逞フシテ數日間吹マザルコトアリ又ハ時トレテ一定ノ規律ヲ守ルガ如キ現象ヲ呈スルコトアリ假令ハバ早朝ハ靜穩ニシテ漸ヤク十、十一時頃ヨリ吹キ始メ正午ヨリ風力ヲ進メ午後三四時ニ猛烈ヲ極メ夕刻ニ鎮靜スルガ如シ此風ハ常ニ街上ノ塵埃ヲ捲キ行人ノ呼吸ヲ腦マシム而シテ降雪遇マ之アルモ皆ナ風ノ爲メ港灣ニ捲去ラレ更ニ地上ニ堆積スル能ハズ故ニ本港ニ於テ掃車ノ便ヲ得ルコト二三日ニ及ベバ最モ長期トスベシ當地方ニ於テ有名ナル風吹ハ十月ヨリ始マリ最モ猖獗ヲ逞フスルハ十月及ヒ一月ニ在リ華氏零度以下十五六度ニ達スルコトアリ冬間ノ空氣ハ乾燥ナルヲ以テ屋內ノ諸材ハ乾燥シ什器ハ乾燥シテ隙隙チ生シ謾謾ノ物品ハ粘着力ヲ失シテ脆碎シ易ク且ツ空氣ノ乾燥ト北風ノ寒威ハ地面ヲ徹シ地下深サ七尺ニ至ルマデ氷結シ井水ヲ乾涸セシムルニ至リ市民ノ困難一方ナラズ春季ハ初春ノ間稍ヤ良好ナリト雖也晩春ニ及ヘバ驟雨又ハ濃霧多ク二者一時ニ襲來シ或ハ各別ニ若クハ新陳交代スルコトアリテ温度ノ動搖一ナラズ

○春季

風力モ冬季ニ比スレバ稍ヤ微弱ナリト雖也尙ホ寒冷ナリ稍ヤ晴ルノ時モ叢雲中空ニ浮遊シ空氣ヲシテ乾燥スルニ迫ナカラシム要スルニ晩春ハ四季中最モ不順ノ季節ナリト云フ如此ク浦潮斯德ニ於ケル氣候ハ頗ル適順チ欠クモノニシテ千八百八十五年ノ調査ニ依ルニ週年中晴天ハ纔チ二百四十四日ニシテ其他ハ皆風雨霧霽若クハ陰曇ノ日ナリ亦タ以テ其一班ヲ徵スルニ足

○氣候ニ基ク
諸現象

ル故ニ此氣候ハ日用諸事物上ニ影響ヲ及ボスヲ甚シク種々ノ變動若クハ特殊ノ現象ヲ呈スルモノナリ譬ヘバ夏ハ屋内ノ建具器物等一トシテ膨脹セザルナク而シテ冬ハ之ニ反シ悉ク収縮スルヲ以テ到底窓戸ノ開閉及ヒ板壁ノ合目ヲシテ適合虛隙ナカラシムルヲ難シ故ニ本港ニ於テ此不順ナル氣候ヲ防禦シ能ク衛生ニ適合スル家屋ノ建築ハ殆ンド之ヲ見ズ亦々旱魃ヲ盛夏ニ見ズシテ之ヲ嚴冬ニ見濕氣ヲ去ランガ爲メ夏時ニ暖炉ヲ焚ク等ノ奇觀ヲ見ル季候ノ不順洵ニ一驚ヲ喫スルニ足レリ

○第四 行政

浦潮新徳ハ黑龍總督政區沿海州ノ首府ニシテ同州廳ノ所在地ナルヲ以テ現任軍務知事陸軍少將「ウンタルベルゲル」氏茲ニ常駐ス從前ハ本港ニ特殊ノ軍務知事ヲ置キ鎮守府司令官ヲシテ之ヲ兼任セシメ而シテ州廳ハ「ハッロフカ」府ニアリシガ昨年十月ヲ以テ之ヲ本港ニ移シ同時ニ鎮守府司令官ノ兼務ヲ解ケリ元來浦潮新徳ハ一般行政上ヨリ區分スレバ完全ナル市ノ資格ヲ備具シ公撰ニ係ル市長ト市會議員ヲ有スト雖モ若シ軍政上ヨリ之ヲ見レバ或ハ軍港トナリ或ハ要塞ト爲ルガ故實際本港ニハ軍務知事、鎮守府司令官及ヒ要塞長ナル三長官アリテ恰モ鼎足ノ勢ヲ爲シ各自一隅ニ割據シテ相讓ラザルノ傾向アリテ動モスレバ命令數途ニ出テ全市一般ノ行政上困難ヲ感ズスルヲ少カラズト云フ

○行政上ノ關係

歐露ニハ素ヨリ一定ノ地方制度アリト雖モ悉比利ハ未ダ創肇ノ中途ニアルガ故勢ヒ本國ノ制度ニ憑據スベカラザルモノアリ從前悉比利ヲ東西二部ニ分チ各總督政區ニ一人ノ總督知事ヲ置キ又總督政區ヲ州縣ニ分割シ軍務知事及ヒ知事ヲ置キ以テ總督知事ヲ隸屬セシムルノ制度ナリシガ千八百八十三年ニ西部總督政區ヲ廢シ其部下ノ州縣一二ヲ獨立セシメテ本國ノ制度ニ依ラシメ且ノ東部總督政區中黑龍、後貝加爾及ヒ沿海ノ三州ヲ分離シ別ニ黑龍總督政區ヲ置ケリ

○悉比利政區

今現時ノ悉比利政區及ヒ行政上ノ關係ヲ示セバ左ノ如シ

黑龍總督政區

(總督知事一人「ハッロフカ」府ニ治ス)
(ス現任侍中將官男爵「コルフ」氏)

沿海州(軍務知事一人浦潮新徳ニ治ス現任陸軍少將「ウンタルベルゲル」氏)
黑龍州(軍務知事一人「ブラゴウエシチエンスク」ニ治ス)
後貝加爾州(軍務知事一人「チタ」ニ治ス)
外ニ薩哈連島ニハ島主一人ヲ置キ本政區總督知事ニ隸屬セシム

東悉比利總督政區

(總督知事一人「イルクツク」府ニ治ス)

「ヤクソツク」縣(知事一人「ヤクソツク」ニ治ス)
「イルクツク」縣(知事一人「イルクツク」ニ治ス)
「エニセイスク」縣(知事一人「ダラスノヤルスク」ニ治ス)

獨立縣二

(總督知事ニ隸屬セズ獨立)
(レテ歐露ノ縣治ト均シ)

「トムスク」縣(知事一人「トムスク」ニ治ス)
「トボルスク」縣(知事一人「トボルスク」ニ治ス)

○總督知事

總督知事ハ皇帝陛下ニ直隸スルモノニシテ其政区内ニ於ケル行政軍務ノ全權ヲ掌握シ各部下ノ州縣知事ヲ統轄ス總督政區ノ下ニ州縣ト別アリ蓋シ州ハ未ダ縣ノ程度ニ至ラザルモノニシテ軍務知事ノ管スルトコロヲ云フ

○陸軍

○砲臺

○砲種

浦潮斯德ハ陸軍ノ關係ヨリ稱スレバ二等要塞（見城及ビ「セバストボ」ニシテ現任要塞司令官ハ陸軍少將「アツケルマン」氏ナリ抑モ本港ニ駐營スル陸軍ハ歩兵三大隊砲兵二中隊及ヒ工兵一中隊ヨリ成立シ更ニ本年十月ヨリ歩兵一大隊ヲ爰ニ移スト云フ砲臺ハ五箇所ノ要害ニ裝置セラル、モノ、外曾テ工事中ニシテ漸ク此程竣工セシモノ三箇處未ダ大砲ノ裝置ヲ了セザルモノ一箇處アリ而シテ既成五箇處ノ舊砲臺中二箇處ハ港口ノ東岸ニ當ル「ゴウドヒン」岬ニ在リ他ノ三箇處ハ之ト對峙スル西岸ノ山上ニ東面シテ築造セラル即チ黒龍灣ニ進入スル敵艦ヲ防禦スルモノナリ此砲臺ニ裝置スル砲種ハ海岸砲及ヒ臼砲ノ二種ニシテ口徑十二「インチ」九「インチ」及ヒ六「インチ」ノ砲ナリ且ツ新造ノ四砲臺ハ曾テ露貨七萬留ヲ國庫ヨリ支出シ築造セシモノナルガ落成ノ后ハ本港ノ防禦上一層ノ鞏固ヲ來セリ
本港ニ駐營スル陸軍及ヒ砲臺ハ一切要塞司令官ノ配下ニ屬スルモノニシテ外ニ南島蘇里軍區ニ散在スル陸軍ノ總指揮官アリテ「ニコリスコエ」村ニ駐在

○浦潮斯德屯在軍兵

レテ区内一般ニ係ル軍務ヲ綜括スト雖モ本港内ニ屯在スル軍兵ニ關シテハ毫モ權利ヲ有セザルモノ、如レ今本港駐營ノ兵數ヲ表示スレバ左ノ如シ

東悉比利線列第一大隊	千人	
同 第五大隊	千人	
西悉比利線列第二大隊	千人	
要塞砲兵二中隊	六百人	
東悉地利工兵一中隊	三百人	
計三千九百人		
外ニ軍務知事付哈薩克兵	三拾五人	
本港内ニ常置スル兵數ノ外沿海州南島蘇里軍區即チ本港ヨリ南「ボシエツト」灣ヲ限リ北「ニコリスコエ」村ニ至ルノ間各要地ニ點置スル軍兵ヲ特載スレバ左ノ如シ		
屯在地名	隊名	員數
ニコリスコエ村	東悉比利狙擊第三大隊	千人
	同 第四大隊	千人
	同 第五大隊	千人
	同 輕砲第二中隊	三百五十人
	同 山砲第四中隊	三百五十人

アラズドリーエ村 東悉比利狙撃第一大隊 千人

アマチノ村 同 第二大隊 千人

後貝加爾哈薩克騎兵第五中隊 二百五十人

東悉比利狙撃第八大隊 千人

後貝加爾哈薩克騎兵第四中隊 二百五十人

アママンスコエ村 烏蘇里騎兵第一中隊 二百五十人

東悉比利狙撃第七大隊 千人

ノイオキイエフ村 同 第九大隊 千人

同 第十大隊 千人

同 山砲第三中隊 三百五十人

ボリエツト村 同 狙撃第六大隊 千人

ボウダーフスキー村 後貝加爾哈薩克騎兵第三中隊 二百五十人

フンチユンスキー村 烏蘇里騎兵第二中隊 二百五十人

カーメニ、レイ、ハローフ村 哈薩克騎兵第一中隊 二百五十人

計 壹萬二千五百五十人

前述ノ如ク南烏蘇里軍區ノ兵數ハ浦潮斯德駐營ノモノヲ合セ實ニ壹萬六千有餘ノ多數ニ及ブ亦以テ露國ガ當地地方ニ於テ銳意經營スルノ一斑ヲ見ルニ足ルベシ

○鎮守府

第六 海軍

○大平洋及悉比利兩艦隊

海軍ノ關係ヨリ稱スレバ浦潮斯德ハ鎮守府〔港〕ニシテ海兵團、病院、浮船渠及ビ造船工場等ノ設アリ本港ハ露國太平洋艦隊及ビ悉比利艦隊ノ定營場タル樞要ノ地ナリ現任鎮守府司令長官ハ海軍少將「エルモラーイエフ」氏ニシテ且ツ悉比利艦隊ノ司令官ヲ兼攝セリ

太平洋艦隊ト悉比利艦隊ノ關係ハ頗ル特殊ノ性質ヲ有スルモノ、如シ現ニ大平洋艦隊司令官「現任海軍中將」〔ナジイモフ〕氏ガ其旗艦ニ搭シテ本港ニ停泊スル間ハ悉比利艦隊ノ船艦ハ廢艦ヲ除クノ外悉ク大平洋艦隊ニ編入セラレ其司令官ノ配下ニ屬スル組織ナルヲ以テ悉比利艦隊ハ實ニ名義上ノ觀ニ止リ船數一定セズ故ニ鎮守府司令長官ハ大平洋艦隊司令官ニ比スレバ權力少ナク開航中ハ艦カニ軍港ニ關スル事務ト結水中ハ冬籠シツ、アル殘艦即チ悉比利艦隊ノ司令官タルニ止ルモノ、如シ今大平洋艦隊及ビ悉比利艦隊船艦ノ船種噸數等ヲ擧グレバ左ノ如シ

○船艦表

艦名	艦種	排水噸數	馬力	長(フット)	幅
パルミヤチ、アゾーワ(旗艦)	甲鐵巡洋艦一等艦	六、〇〇〇	八、五〇〇	：	：
ウラジミル、モノマフ	全	五、七七六	七、〇〇〇	二九六、六	五二、〇
チギツト	コルゲエツト二等艦	一、三三四	一、三八三	二〇六、九	三二、一
マンヂユール	全	一、二二三	一、〇〇〇	二一〇、〇	三五、〇

○水雷船及廢艦

コレイツ	コルゲエツト二等艦	一、二二三	：	：	：	：	：
レニウチ	全	九四九	：	：	：	：	：
ホーブル(休艦)	全	全	：	：	：	：	：
アレウイト	木造スクリーナ三等艦	八一	：	：	：	：	：
トングーズ(目下檢疫船)	全	七〇六	：	：	：	：	：

外ニ水雷船ニハ「ヤンチ」號及ビ「スチエーナ」號ノ二隻、水雷艦ニハ「ナデーシダ」號「パリオ」號「キート」號及ビ「フアルワテール」號ノ四隻、海船ニハ「アマール」號及ビ「ボリーザ」號ノ二隻アリ而シテ廢艦ニハ「コルゲエツト」形「アブレイク」號及ビ「スリーナ」形「エルマート」號、砲艦ニハ「モールシ」號「キルバ」號「ソーパー」號及ビ「ゴルノスマイ」號ノ四隻アリ、テ外ニ運搬船「ヤポーチ」號一隻アリ

浮船渠ハ海軍所屬ニシテ軍港ノ東奥ニ在リ千八百八十九年ニ竣工シ噸數二千噸長サ三百「フヒート」以下ノ船舶ヲ容ル、ニ足ル此船渠ハ普通船主ノ需ニ應ジ船舶ヲ修繕ス其揚卸料四百留一晝夜ノ入渠料百七十五留トス然レ此船渠ハ巨艦大船ノ修繕ニ供スル能ハザルガ故露國政府五百萬留ノ巨額ヲ國庫ヨリ支出シ鉅大ナル船渠ヲ築造スルヲ決セリ木船渠ノ築造ハ本年二月ヨリ海水堰留ニ着手シ目下專ハラ土工督促中ナリ設計案ニ依ルニ長サ五百「フヒート」幅八十五「フヒート」深サ二十八「フヒート」ニシテ千八百九十四年ヲ期シ完成ノ計畫ナリ此大船渠ニシテ一旦竣工ヲ告グルニ及テハ歐露ニ現存スル

○大船渠

○浮船渠

○戸口増加ノ原因

船渠ト雖正之ニ勝ルモノ少ク東洋ニ於ケル露國軍艦モ最早外國船渠ニ依頼スルノ必要ナク完全ナル修繕及ビ築造ニ從フヲ得ベク其便益鮮少ナラズ本年五月皇太子來遊ニ際シ殿下工場ニ親臨シ自カラ基礎式ヲ翠ケ玉ヘリ爾來工事ハ孜々トシテ息ルナキヲ以テ其進歩大ニ見ルベキモノアリ

第七 戸口

浦潮所徳ハ開拓后星霜ヲ經ル繼カニ三十ニ過ギズト雖正頗ル長足ノ進歩ヲ爲シ今ヤ太平洋岸ニ於テ南島蘇里地方ヲ代表スル一首府トシテ現出スルニ至レリ惟フニ是レ當地方商工業ノ開達ニ隨伴スル結果ニアラズレテ全ク露國政府ガ國政上ノ方針ニ職由スルヲ知ル試ニ市民ノ組織ヲ解剖セバ文武ノ官屬其多數ヲ占メ從テ家屋所有ノ過半モ亦海陸軍ノ豫備若クハ退職者ナラザレバ必ズ現任ノ文武官ナリ亦以テ其一斑ヲ徵スルニ足ルベシ

本港ノ戸口歲月ヲ逐フテ増殖スルヤ當ニ露人ノミナラズ外國人モ亦頗ル多シ千八百八十四年ニ於テ兵營及ビ官府ノ建物ヲ除キ戸數五百七十、人口一萬〇〇六十九〔男八、三六二〕〔女一、七〇七〕其内露人八六、一九七、歐米人八七、支那朝鮮及ビ日本人三、七八五ナリシモ千八百八十六年ニ於テハ戸口噸ニ増殖セシコト左ノ如シ

○千八百八十六年ノ戸口

戸數	七八九
內	共有建物木造平屋
	一二

私有木造平屋	五六七
同 木造二階家	一八
同 煉化造平屋	三五
同 煉化造二階家	五
同 支那風家屋	三
同 木造小屋	一二四
同 煉化小屋	一六
人口	一三、六〇〇

内

海陸士官及軍屬 二〇六
 下士兵員 三、五〇八
 海陸軍人ノ家族 一、〇一三
 露國人 三、三〇〇
 外國人 五、六〇〇

然レ此前述ノ戸口ハ五年前ノ調査ニ係リ爾後本港ガ發達ノ度舊時ニ倍從スルノ勢ナレバ今日ノ現數ハ實際ニ於テ非常ニ増加セシヤ蓋シ疑ヲ容ルベカラズト雖此未ダ精確ナル材料ヲ得ル能ハズ殊ニ支那人若クハ朝鮮人ノ如キ

○現時戸口概數

戸數 千五百戸
 人口 二萬三千七百五十人

- 露國人 壹萬人
- 歐米人 百五十人
- 日本人 六百人
- 支那人 壹萬人
- 朝鮮人 三千人

○一時來航スルモノ

ハ別ニ戶籍又ハ名簿ノ設ケナク來去常ナク出入定リナキ民衆ナレバ到底之ヲ詳知スルニ由ナシ只ダ余ガ在留中實地見聞セシ想像的概數ノ開航中ノ擧グレバ

ニ過ギザルベシ且ツ夏季ニ際スレバ朝鮮、支那及ヒ日本地方ヨリ出稼人陸續來航シ晚秋ニ及ンテ各自ノ郷土ニ復歸スルモノ多シ然ルニ朝鮮、支那ニ於テハ旅券ノ制度未ダ整頓セザルヲ以テ正確ナル人員ヲ知ルニ由ナシト雖此毎

年解氷ト共ニ來航シ結氷ト共ニ歸航スルモノ、概數三千人ニ下ラザルベシ

市民ノ増殖ト共ニ軍兵ノ數モ漸次増加シ現今歩兵三大隊砲兵二中隊及ヒ工兵一中隊アレド遠カラズ更ニ歩兵一大隊ヲ増置スル計畫アリト云フ要スルニ本港ニ於ケル人口ノ増加ハ出生ノ死亡ニ超過スル自然的ノ増殖ニア

○兵數ノ増加

○傳染病ノ影

ラオシテ全ク毎年本港ニ渡航スル移住人ノ巨多ナルニ原因スルモノ、如シ
 千八百八十六年ニ浦潮新徳市民中〔黄色人種〕出生セシモノ貳百六十二人ニ
 シテ死亡セシモノ貳百廿五人〔千人ニ付總カニ廿〕乃チ自然的増殖ハ總カニ
 三十七人ニ過ギズシテ其増殖力ノ甚ダ微弱ナルヲ知ルベシ
 本港ノ住民ハ重ニ公務若クハ商業ノ爲メ五年若クハ十年ヲ期シ滯留スルモ
 ノ過半ヲ占メ當地ニ於テ出生セシ兒童モ豫期ノ年限ニ至レバ其兩親ト共ニ
 歸國スルモノ多ク未ダ純然タル常住民ト稱スベキモノ甚ダ稀ナリ又人口ノ
 割合ニ比シ死亡少ナキ所以ノモノハ當地ニ在留スルモノ概テ少壯者若クハ
 中年ノ身體健全ナルモノ多ク飲水ノ不其及ヒ氣候ノ不順等彼等住民ノ健康
 ニ對シ寸毫ノ影響ヲ及ボス能ハザルノ場合少ナカラズ故ニ生死ノ統計的材
 料ヲ以テ當地人口増殖ノ要素ヲ探知スルニ難シ畢竟此増加ハ只ダ移住若ク
 ハ寄寓人ノ逐年増加シタル蓄積合計ト云フモ敢テ經言ニアラザルベシ
 尙ホ毎年義勇艦隊ノ派船ニ搭シ歐露ヨリ來航スル移住民ハ概テ内部地方ニ
 赴クモノニシテ時々傳染病ヲ携ヒ來リテ本港人口ノ増殖ニ多少ノ影響ヲ及
 ボスコト少ナカラズ現ニ千八百八十六年十一月廿中「ベテルブルグ」號ガ麻疹、天
 然痘及ヒ室扶斯ヲ輸入シ一時ハ全市ヲシテ殆ンド危殆ノ地位ニ陥ラシメン
 トセシモ幸ニ此移住民ヲ一時市外ニ避難セシメ總カニ禍害ヲ免ル、ヲチ得

○日本人ノ數

現時日本人ノ東部悉比利ノ各地ニ在留スルモノ殆ンド六百名ニ越ニ可ケレ
 而旅券ヲ有セザルガ爲ノ其氏名ノ警察名簿ニ入ラザルモノアレテ以テ茲ニ
 正確ナル員數ヲ知り難シ今千八百九十年十二月ノ調査ニ據ルハ總計五百七
 十二人ニシテ之ヲ細別スレバ左ノ如シ

地名	男	女
浦潮新徳	一七〇	二二二
ニコリスコエ村	八	五三
ニコライフスク府	三	九
ハヤロフカ府	八	三三
ヤンチヘ村	三	一五
ボシエツト村	四	四
ブラゴウエツチエンスク府	一六	二三
カイメニ、ルイバロフ村	一	四
計	二〇九	三六三

○黒龍江區人

然レ日本表ハ浦潮新徳港結水中ノ調査ニ係ルモノニシテ此時期ハ即チ周年
 中在日本在留人ノ最モ少數ナル季節ナリ蓋シ日本人モ亦支那人及ヒ朝鮮人
 ト均シク開航ニ渡來シ終航ニ歸國スルモノ多クナカラザルヲ以テナリ
 戸口ノ條項ヲ記述シ終ルニ臨ミ參照ノ爲メ東悉比利區黒龍總督政區ノ人口

ヲ摘録スレバ左ノ如ク

沿海州

一〇一、七五〇

黒龍州

六二、六四〇

後貝加爾州

五三〇、八九六

計

六九五、二八六

第八 職業

浦潮新徳住民ノ過半ハ文武官屬ニシテ各自直接ノ公務ニ従事シ他ノ職業ニ關係ナレト雖モ其餘ノモノハ各種ノ職業ニ従事ス

本港近郊乃チ「ムラウ井ヨフ、アムルスキ」半島ニハ露人ノ移住民トシテ農業ニ従事スルモノ殆ンドナレテ從テ日用必需ノ物品ニ乏シキガ故浦潮新徳近郊ニ消耗スル穀類ハ悉ク他邦ノ輸入ニ係ルモノ多シ海陸軍ハ糧食ヲ海路歐露ヨリ取寄セ殊ニ麥粉ヲ輸入スルコト多ク之ヲ倉庫ニ貯蓄セリ然ルニ近年ハ陸軍衣糧課ニ於テ蒸氣製粉場ヲ建設シ内地諸村落ヨリ購買スル小麥ヲ以テ其材料ニ充シヨリ市民ノ食用品モ當地地方ノ産ヲ仰グト雖モ過半ハ海外ヨリ輸入スルモノナリ上等麥粉ハ重ニ歐露及ヒ米國「カリホルニア」州ヨリ輸入スルシテ市内ニハ穀類ヲ貯蓄スベキ倉庫ナク大小商店ニ於テモ只マ些少ノ貯蓄アルノミナレバ一旦事起ルノ日ハ食糧忽チ欠乏ヲ告ケ軍營及ヒ市民ハ必ズ困難ノ地位ニ陥ルベシ

○製粉業

官設製粉場ノ外「リンドホルム」氏所有製粉場アリ職工八人ヲ使役シ年額九千九百留ノ収入アリ此製粉器械ハ一晝夜ニ八十布ヲ擣キ得ルト雖モ原料ニ乏シキヲ以テ未ダ全力ヲ擧グテ製粉ニ従事スル能ハズ公衆ノ注文ニ應ズルハ容貸及ヒ乾代トシテ一布ニ付三十哥ヲ徴スト云フ又風車製粉場アリ其營業ノ詳細ヲ知ルニ由ナレト雖モ千八百八十六年ニ於テハ製粉収入七千六百留餘ナリト云フ

○蔬菜

蔬菜培植ニ従事スルモノハ支那人ニシテ露西亞島ニ於テ専ラ之ヲ種植スト雖モ未ダ産額少ナク需用ヲ充スニ足ラズ近郊諸村落ヨリ輸送スルモノアリ

○牧畜

牧畜業ハ殆ンド絶無ト云フモ敢テ虚言ニアラズ浦潮新徳ヲ距ル八十露里ニ一私人ニ屬スル牧場アリ良種ノ馬匹蕃殖ニ従事スト雖モ未ダ其事業發達ノ成否今日ニ於テト知スル能ハズ食牛ハ概チ朝鮮ヨリ供給ヲ仰ギ次ニ少額ヲ滿州ニ仰グ馬匹ハ滿州産ニ係ルモノ過半ヲ占ム

○銃獵

銃獵ハ露西亞島ニ棲息スル野生山羊、雉子ノ類ナリ鹿ハ多ク「アスコッド」島ニ産ス此島ハ「アレクサンデル、ミハイロウ」親王ノ保護ニ成ル浦潮新徳銃獵會ノ所轄ニ歸シ將校紳士等ノ上流社會ヨリ組織セラレタル會員ノ遊獵場トシテ公衆ノ銃獵ヲ許サズト云フ總テ浦潮新徳近傍ハ獸類稀少ナルヲ以テ前邊露西亞島及ヒ「アスコッド」島若クハ内地大陸ニ赴カザレバ収獲多カラズ

○水産

漁業ハ稍々進歩シ、アルモ之ニ從事スルモノハ多ク支那人ナリ而シテ其市場ニ現ハル、モノハ鮭、鱈、鯉、鰻、鰩、鰈、鰪、鰻、鰩、鰪、鰬等ニシテ其價格頗ル高シ冬季ニハ「ハヤロフカ」府及ヒ烏蘇里河ヨリ河鱈等ヲ輸入ス全体捕潮斯德近傍ニ於テハ漁獲甚ダ少ナク唯蝦貝ノ四季ニ絶ルコトナキモ皆大蝦ニシテ其味ハ「デカストリ」（在ハ港灣）産ニ比スレバ稍々劣等ナリ當地方ニ産スル昆布及ヒ海參ハ悉ク支那人ノ需求ニ供スルモノニシテ昆布ノ輸出高近來頗ル巨額ニ達セリ海參ハ支那人ガ本港ヲ呼ンテ海參蔵ト爲スダケ品質頗ル良好ナリ日本人中ニハ昨年來潜水器ヲ携來シ海參ノ採収ニ從事スルモノアレ未ク經驗ト船手ニ乏シキヲ以テ巨利ヲ博スルニ至ラズ

○雜業

其他雜業ノ重ナルモノニ就テ云ハソニ木炭及ヒ人參ノ採拾ニ從事スルモノハ支那人ニシテ多ク支那ニ輸出ス薪材採伐業ハ露人及ヒ支那人之ニ從事ス車力業（荷馬車）ハ全ク滿人ノ掌裏ニ在リ馬秣業ハ露人及ヒ支那人之ニ從事シ市内ニ馬秣庫ノ設ケアリテ之ヲ販賣ス建築用ノ石材切出ニハ支那人專ラ從事シ馬車業ハ露人之ヲ營ム而シテ解業ハ全ク支那人ノ掌裏ニ歸シ彼等ニ生活ヲ與フル要素ナリ而シテ其發達ノ旺ナル既ニ千八百八十五年ニ於テハ解稅五千九百二十七留ノ巨額ニ達セリ

○官立製造場

製造業ハ未ダ進歩ノ域ニ達セズ其主座ヲ占ムルモノハ鎮守府ニ屬スル海軍工作場ニシテ機關及ヒ造船ノ二部ニ分カル日本人中大工若クハ鍛冶匠トシ

○私立製造場

テ同工場ニ使雇セラル、モノ甚ダ多ク賃銀ハ一日二留半乃至一留ヲ得又陸軍歩兵隊及ヒ砲兵隊ニ各工場アリ指物、螺絲、馮具靴等ノ分業ニ從事ス市内煉化製造場三箇所アリ其内二個ハ露人ニ屬シ一個ハ支那人ノ設立ニ係ル麥酒製造場ハ獨人ノ所有ニ屬シ木港ヲ距ル三露里ナル一番川ニアリ其醸造品ハ重ニ木港及ヒ近郊村落ノ需用ニ供ス其價格「ウエドロ」ニ付五留ニシテ原料ナル苦草及ヒ大麥ハ近郊産及ヒ外國ノ輸入品ナリ夏季ニ及バ浦湖市民ハ同所ニ散策若クハ遠乗シテ飲ヲ買ヒ景ヲ賞スルモノ少ナカラズ又製皮場アリテ皮革ヲ柔メスモ頗ル産雜ニシテ織カニ支那人ノ靴及ヒ馬具ニ充ツルモノ、外之ニ適スルモノナシ

○職工

本港ニ於ケル職工ノ重ナルモノハ時計師、飾師、指物師、大工、石工、左官等ニシテ之ニ從事スルモノハ歐米人、支那人及ヒ日本人トス又錠前師、馬具師、鍛冶職、裁縫師、靴師、製木師、皮毛師、麵包師、菓子屋等アリ

○日本ノ職工

日本職工ハ一般ニ巧手ニシテ誠實ナルト且ツ價格ノ廉直ナルニ依リ市内ニ賃得セラル殊ニ洗濯業ノ如キハ全ク日本人ノ掌裏ニ落テ他國人ノ之ニ從事スルモノ甚ダ稀ナリ洗濯賃ハ一品十哥乃至六哥時トシテ襪一枚ノ代十五哥ニ達スルコトアリ是レ港内ニ繫泊スル船舶最モ多キ時期ニシテ船舶ノ數減ズルニ從ヒ洗濯モ亦舊位ニ復スト云フ

○將僕

陸海軍ノ將校ハ從僕トシテ部下ノ兵卒ヲ使役スレバ各官署ノ吏員及ヒ市民

ガ尋常婢僕ヲ雇入ルニ際シ頗ル困難ヲ感ズルモノ、如シ蓋シ露人ノ婢僕ヲ雇入ル、コハ甚ダ容易ナラザルノ事情少ナカラズ從來當地方ニ於ケル露人ノ婢僕トナルベキ者ハ兵卒ノ滿期者タラザレバ無頼ノ移民タルヲ以テ性質怠慢ニシテ疎暴放蕩ニシテ酒癖アリ加フルニ給料ヲ前借スルノ惡弊アリ然ルニ日本人ノ婢僕ハ清潔ニシテ勞働ニ耐ヘ且ツ性質廉直ナルヲ以テ之ヲ望ムモノ多シ故ニ婢僕ハ日本人ヲ第一トシ之ニ亞グモノヲ支那人トシ其次ハ朝鮮人ナリ而シテ一般ニ市民ハ「コック」又ハ「ボーイ」ニ若キ支那人日本人ヲ雇ヒ子守ニ日本ノ婦女ヲ雇フ朝鮮人及ヒ支那人ノ多數ハ重ニ下等勞働者トシテ馬丁、門番、夜番及ヒ掃除、使丁等ニ役使ス

第九 教育

○教育ノ程度

浦潮斯德ニ於ケル教育ハ其基礎略備ハルト雖モ未ダ完成ノ域ニ達セズ從テ市民中痛痒ヲ感ズルモノ鮮少ナラズ元來本港ハ勿論全沿海州中一ノ純然タル中學校若クハ高等教育ノ科程ヲ有スル學校ナキヲ以テ市民ヲシテ子弟教育ノ不完全ナル爲メ茲ニ永住スルノ精神ヲ沮喪セシメ歐露ニ歸住スルノ念ヲ生ゼシムルコト多シ目下本港ニ一ノ準中學校アルモ未ダ完全ノ域ニ進マザルヲ以テ更ニ高尚ナル學科ヲ修メントスルニハ「チタ」「ブラゴウ」エシチエンスク「若クハ」イルグツク」等ノ遠地ニ留學セザルベカラズ然レモ子弟ヲ留學セシムルニハ多少ノ資本ヲ有スルモノニアラザレハ能ハズ到底中等以下ノ父兄

○各種學校

ニ在テ之ヲ望ムベカラザレバ寧ロ歐露ニ歸ルノ優レルニ若カザルモノアリ今本港ニ現存スル各種ノ學校ヲ擧グレバ

- 準中學校
- 女學校
- 市立小學校
- 貧民學校
- 職工學校
- 音樂學校
- 航海科

トス準中學校ハ支那街ト「スウエト」ランスカヤ街ノ隅角ニ在リ文部省ノ直轄ニシテ千八百七十七年「ニコライ」フスク「府」ヨリ本港ニ移セシモノナリ學級ヲ六階ニ分チ生徒凡ソ八十名、教員十名、現任校長ハ「ウオツ」ヒンスキー「氏」ナリ女學校ハ「スウエト」ランスカヤ街ニ在リテ「アドミラル」公園ト相對ス是レ亦「ニコウ」エフスク「府」ヨリ移シタルモノニシテ最初海軍省ノ所轄ナリシモ昨年ヨリ準中學校ト均シク文部省ノ直轄トナリ生徒二十三名、授業料ハ一箇年二十留特ニ音樂科ヲ修ムルモノハ百留トス校長ハ「セミ」ヨノフ「夫人」ナリ市立小學校ハ市場ノ傍ニ在リ市費ヲ以テ之ヲ維持ス月謝ハ無料ニシテ生徒凡五十名、幹事一名、教師二名アリ紳商「ヨンド」ホルム「氏」名譽監督者トシテ之ヲ綜理ス

貧民學校ハニアリ一ハ「スウエトランスカヤ」街ニ一ハ「マトロスカヤ」街ニ在リ
 素ト浦潮慈善會ノ施設ニ係リ寺院及ビ市廳ノ補助ニヨリ之ヲ維持ス生徒ハ
 悉ク女兒ニシテ計三十名アリ職工學校ト音樂學校ハ共ニ鎮守府ニ屬シ一ハ
 工作場ニ必要ナル職工ヲ養成シ一ハ海軍樂隊ヲ講修スル所トス又航海科ハ
 當分ノ内市立小學校内ニ設ケ生徒ハ十七歳已上ノモノニ入學ヲ許シ航海學
 ノ初歩ヲ教授ス
 前述ノ外「ブヒリ」ブチエン「コ」氏ノ設立ニ係ル私立學校アリ男女兒ヲ教授シ月
 謝十五留ナリ又市廳内ニ書籍縱覽場ヲ設ケ無料ニテ公衆ノ縱覽ニ供ス

第十 衛生

浦潮新徳ニ於ケル衛生事務ハ決シテ整頓セリト云フベカラズト雖モ氣候、家
 屋ノ構造及ビ市民生計ノ狀態モ亦之ガ障害ヲ爲スコト多シ
 本港ニ於ケル不順ナル氣候ハ其住民ノ健康ニ大ナル害毒ヲ與フルコト鮮少ナ
 ラズ譬トヘバ春夏ノ交濕霧ノ爲メ空氣非常ニ濕潤シ頗ル鬱幽ヲ感ズルノ季
 節ニハ自殺ノ數多シ當地ニ流行スル病症ノ重ナルモノハ氣管病、感冒、癆瘵、室
 斯、鶴亂、下痢等ナリ又傳染病ハ實扶提利亞、麻疹、猩々紅疹、天然痘、室扶斯ノ類ニ
 シテ多クハ來航スル移住民ヨリ傳播スルモノナリ腸胃病ノ流行ハ哥倫、新嘉
 坡等ヨリ輸入スル未熟果物ニ原因スルモノ多ク而シテ牛疫ハ重ニ隣國朝鮮
 ヨリ之ニ感染セル生牛ヲ輸入スルニ由ル

○氣候ト病氣ノ關係

○病症

○家屋

市内ノ家屋殊ニ貧民ノ住家ノ如キハ概テ木造ニシテ陋隘濕氣侵潤シ易ク寒
 氣防禦シ難ク一トシテ衛生上ノ規律ニ適合スルモノナシ是レ畢竟速成ノ建
 築ニシテ多クハ丸木ヲ以テ外壁ト爲スト雖モ只ダ板材ノミヲ以テ四壁ヲ掩
 フモノアリ其疎雜ナル知ルベキノミ而シテ此ノ如キ家屋ニ屬スル便所ハ掃
 造頗ル粗惡ナルノミナラズ掃除ハ單ニ受負人ニ一任シテ更ニ注意ヲ加ヘザ
 ルガ故其不潔ナル殆ンド名狀スベカラザルモノアリ
 最モ衛生上ニ障害ヲ與フルモノハ支那人ノ住居區「セメノ」フスキ「濕地及
 ビ陸海兵ノ市街ナリ此等ノ市區ハ概テ隣ムベキ小屋ヨリ成立シ完全ナル便
 所ハ勿論塵芥捨場、糞管、下水、溝等ノ設ナク之ニ棲息スルモノハ貧寒ナル勞働
 者即チ支那人、朝鮮人及ビ露兵ノ家族ニシテ其最モ不潔ナル街區ニ至テハ殆
 ンド通行人ヲシテ嘔吐ヲ催サシム實ニ是レ該市衛生上ノ一大障礙ニシテ惡
 疫ノ媒介ヲ爲スモノナリ

○井戸

完全ナル井戸ノ欠乏モ亦衛生事務ノ整頓ニ一大障礙ヲ與フル原因ナリトス
 市民ハ常ニ有害ナル有機物ヲ包含スル不良ノ濁水ヲ使用スルヲ以テ夏時ニ
 至レバ腸胃ヲ損シ下痢ヲ招クコト多シ現時市中ノ井戸三十五悉ク堀井戸ニシ
 テ一ノ噴泉井戸ナレ一番川ノ水ハ飲料ニ適スト雖モ運輸ニ不便ニシテ荷馬
 車ヲ有スルモノニ非ラザレバ之ヲ得ルコト難シ又冬季ニ際スレバ井水乾枯シ
 テ全市ノ恐慌ヲ來スコト往々アリ今ヤ新街逐年ニ開ケ住民日ニ増スノ傾向アリ

ルヲ以テ將來必ズ飲料水ニ一大欠乏ヲ告グルノ時アラシク今日ニ於テ之ガ計畫ヲ施サザルヘカラス未ダ地層ノ適否ヲ調査セズト雖モ惟フニ本邦ニ於ケル堀貫井戸ヲ構造セバ此井水ノ不足ヲ填充スルノ上ニ於テ一大鴻益ヲ見ルナラン

○病院

浦潮斯德ノ開市日猶ホ淺キヲ以テ他ノ緊急ナル費途多端ニシテ未ダ市立病院ノ設立ヲ見ル能ハザルハ市民ノ最モ遺憾トスル所ナリ市内唯一ノ病院ハ海軍病院ニレテ百五十ノ病床ヲ備ヘ專ラ海軍所屬員ノ治療ニ從事ス而シテ官府ノ吏員又ハ市民ニモ相當ノ紹介ニヨリ入院ヲ許スト雖モ固ヨリ空床アルニアラザレバ之ヲ許サズ陸軍兵營ニモ二個ノ病舎アルモ軍人ノ外ハ一切之ヲ拒絕ス又梅毒病院アレモ是モ亦單ニ娼妓ノ檢毒及ヒ治療ニ止ルモノトス藥局ハ海軍病院及ヒ陸軍病舎ニ各付屬ノモノアリ私立ノ藥局ハ市内只ダ一個アルノミ

○醫師

醫師ハ市醫及ヒ獸醫ヲ除クノ外陸軍醫六名海軍區艦船付ヲ合セテ八名アリ一悉比利艦隊付ノ醫官ハ開航中ハ艦内ニ住シ陸上ニアルモノハ一而シテ海陸軍醫ハ皆ナ市民ノ依頼ニ應ジ診察ヲ爲スト雖モ千八百九十年ヨリ貧民患者施療ノ爲メ市醫一名ヲ置ケリ市内齒科醫ナレト雖モ前述醫師中之ヲ兼治スルモノアリ甚ダ拙劣ナリ日本ノ齒科醫時々來航シテ公衆ヲ治療ス其評判頗ル好シ外ニ免許產婆六名アリ

○日本醫師ノ開業

本年八月我政府ヨリ露政府ヘ協議スルトコロアリテ相當ノ卒業證書クハ免狀ヲ有スル日本醫ニ市内ニ開業ノ權ヲ與フルコトニ就キ承諾ヲ得タルニ依リ現時開業スルモノ一人アリ然レモ其治療ハ單ニ在留日本人民ニ限ルモノトス

○衛生事務ノ區分

本港ニ於ケル衛生事務ハ兵營及ヒ海兵團ニ屬スル地區ヲ除クノ外悉ク市廳警察署及ヒ市醫ノ監督ニ屬ス又清潔法ノ設ケアルモ之ガ實施甚ダ鈍ク市内汚穢ノ場處到ル處ニ多シ當局者モ亦放任シテ敢テ顧慮スルコトナキガ如シ

第十一 浦潮斯德ノ歲出入

本市ノ逐年般盛ニ赴クト共ニ歲出入ノ額モ漸次増加スルニ至ル惟フニ是レ市内ニ於ケル諸制度ノ整頓ト緊要事業ノ創肇ニ基クテ知ルベシ今試ニ數年間ノ歲入及ヒ其内譯ノ概略ヲ左ニ開別ス

年 別	歲 入 額
千八百八十三年	五四、七九六
千八百八十四年	六三、九〇二
千八百八十五年	七一、八一八
千八百八十六年	七八、九九七
千八百八十七年	八九、六〇四
千八百八十八年	九二、二三七

○歳入ノ細目

而シテ前表ノ結尾ナル千八百八十八年ノ歳入ヲ細別スレバ
 不動産税 四、九八二、七六
 市有地面及ヒ財産ヨリ生ズル収入五七、〇一〇、一三
 各種ノ國産税及ヒ歩合税 一〇、二二六、四〇
 市有財産賣下金 一六、八〇八、三八
 雜収入 三、二〇九、五〇
 計 九二、二三七、一七

○歳出

又歳出ヲ擧グレハ左ノ如ク
 年 別 歳出額
 千八百八十四年 六三、二三一
 千八百八十五年 六七、七三四
 千八百八十六年 八七、九九五
 千八百八十七年 八六、五〇四
 千八百八十八年 八〇、九二九
 而シテ千八百八十四年以下四年間ノ歳出内譯比較ヲ擧グレハ左ノ如ク
 費途項目 千八百八十四年 千八百八十五年 千八百八十六年 千八百八十七年
 市廳吏員俸給 一七、一 一六、五 一〇、四 九、九
 市廳經費 四、三 四、五 三、三 三、五

○歳出ノ細目
比較

○費途ノ多少

警察費	二、五	三、三	五、六	四、五
消防費	一一、五	六、九	五、九	五、四
共有建物修繕及ヒ保管費	二、八	二、四	八、五	一六、二
水道費	四、七	二、〇	五、七	〇、九
道路街燈其他諸費	三八、三	三五、二	三〇、五	二六、四
教育費	〇、六	二、〇	二、七	五、九
衛生費	〇、七	一、六	二、〇	三、五
諸雜費	四、五	三、〇	七、九	四、一
市民へ賣下ス薪ニ關スル費用	一三、〇	一三、六	一七、五	一九、七

如此ク歳出項目中最モ多額ノ費目ハ道路、街燈其他ノ諸費ニシテ之ニ亞グモノハ役員ノ俸給ナリ而シテ其最モ少額ナルモノハ衛生教育トス惟フニ此比較割合ニ就キ費額ノ多寡累年ノ増減ヲ考査セバ市廳施政ノ方針ニ於ケル緩急及ヒ市内大小ノ事業發達ノ度合ヲ推知スルヲ得ベシ

第十二 警察

浦潮新徳ノ警察署ハ千八百八十四年ニ開設セラレタルモノニシテ内務省ニ屬シ軍務知事ノ配下ニ在リ署員ハ警察長一名、警部三名、巡查二十五名及ヒ書記備吏若干名ヲ以テ之ヲ組織シ其經費ハ國庫ノ支辨ニ屬スト雖市ヨリモ之ヲ補足シ千八百八十七年ニ於テハ三千八百六十三留ヲ市費ヨリ補助セリ

○警察ノ組織
及經費

○警務ノ整否

現今ノ警察署ハ借家ニシテ警察長ノ官舎ハ市廳ノ階上一部分ヲ以テ之ニ充ツ又拘留人ヲ容ル、糧倉ハ通常ノ住家ヲ改造シタルモノニシテ非常ニ狹隘ナリ警務ハ一般ニ舊套ヲ墨守シ事務ノ處辨甚ダ緩慢ナリ從テ警保上ノ注意周到チ欠キ事務ノ滯滞ハ往々緊急ノ事件ヲ誤ルニ至ル吏員モ亦々偏頗愛憎ノ措置多ク濫リニ公權ヲ弄シ不正ノ収賄ヲ爲スコトナキニアラズ巡查モ亦々頗ル薄給ナルヲ以テ時々非行ヲ爲シ金錢ノ爲メ左右セラレ、多シ之ヲ例センニ深夜街上ヲ通行スルノ際遇マ馬車ノ必要ヲ感ズルモ之ヲ獲ル能ハザルモ若シ巡查ニ些少ノ金錢ヲ握ラシメバ忽チ狂奔シテ馬車ヲ周旋シ來ルベシトノ笑話ハ本市巡查一般ノ状態ヲ觀破スルノ好材料タルベシ

○警邏區

市内ノ警邏區ヲ四分シ第一區及ヒ第四區ニ警部各一名、第二區及ヒ第三區ニ警部一名ヲ置キ之ヲ管理セシメ警察長之ヲ總括ス現任ノ警察長ハ「ベトロ」フ「氏」ナリ

第十三 消防

○消防ノ必要

浦潮斯德ハ前章ニ於テ說明セルガ如ク頗ル水利ニ乏シキヲ以テ消防ノ必要ヲ感ズル一層切ナリト云フベシ故ニ消防隊ヲ設ケテ不虞ニ備フト雖市街ノ地勢起伏高低一ナラズ其効果ヲ充分ナラシムルヲ能ハザル者アリ「消防本署」ハ「セメ」ノ「フスカヤ」、「スイフンスカヤ」兩街ノ隅角ナル官有建物内ニ在リ之ニ備ヘ置ク處ノ消防器械ハ手押唧筒三個、輕車唧筒一個及ヒ水樽四

○消防隊備付ノ器械及其組織

○煙筒掃除

個ヲ千八百八十七年ニ之ヲ購置シ其價四千留ナリ而シテ其組織ハ消防長一名消防夫十名、馬匹十四頭ヲ以テ成ル市内火災ノ場合ニ於テハ陸軍兵營ノ兵卒ヲ派遣シテ之ニ應援セシメ又支那人百名ヨリ成立スル義勇消防隊アリテ火災ニ際スレバ消防夫ト同裝ニテ之ニ助力ヲ與フルノ方法ナリ

○火災ノ媒介物

火災豫防ノ爲メ市廳ハ豫シメ受負人ヲ備ヒ置キ市内各戸ノ煙筒ヲ掃除セシメ尋常煙筒ヨリハ一回十哥ノ掃除賃ヲ徴シ二重煙筒ヨリ同三十哥ヲ徴ス且ツ其破損ノ場合ニ於テハ少破損ハ受負人之ヲ修繕シ大破ノモノハ家主ニ通知シテ之ガ修繕ヲ負擔セシム

第十四 郵便及電信

郵電局ハ「スウエト」ラ「ンスヤカ」街ニ在リテ我邦ニ於ケル如ク郵便電信ノ二事務ヲ一局ニ於テ併掌ス

○歐露トノ郵便交通

元來浦潮斯德ト歐露トノ郵便交通ハ海陸ノ二路アリテ一ハ義勇艦隊漁船ノ輾來スルモノニシテ歐露本部ヨリ一箇月半ヲ要シ一ハ陸路ヲ經由スルモノニシテ尙ホ一層多キ時日ヲ消費セザルベカラズ殊ニ陸路經由ノモノハ路程

○郵稅

遠遠殆一萬露里ニ涉ルガ故郵便物及ヒ書籍等當地ニ達スル頃ニハ概テ多少ノ破損ヲ蒙リ無事ニ到着スルモノ殆ソド稀ナリト云フ
國內郵便稅ハ葉書三哥、封書一「ロツト」〔我三奴〕每ニ七哥ナリ又帶封乃チ定時刊行物等ノ如キモノハ四「ロツト」每ニ二哥ニシテ書留郵便ハ通常定率ノ切手ヲ貼用シタル上ニ七哥ノ切手ヲ貼付スルヲ要ス而シテ該地ヨリ我邦ニ送ルベキ書信ハ一「ロツト」十哥ヲ要ス

○郵便事務

要スルニ本港ニ於ケル郵便事務ハ頗ル不整頓ニシテ且ツ緩慢ナリ假令ヘバ郵便船ノ投錨后少クモ四五時間ヲ經過セザレバ之ヲ配達セザルノミナラズ若シ日曜又ハ祝日ニ遭遇スレバ全一二日ヲ待タザルベカラズ又郵便發送ノ際ニ於テモ亦タ不便ヲ感ズルヲ鮮少ナラズ郵船出帆前締切ヲ爲スト動モスレバ五六時間若クハ一日前ニ於テスルガ爲メ郵船繫泊中ノ短縮ナル時日中ニ該船ノ載來セル緊要ナル書信ニ對シ回答ノ機會ヲ失スルヲ往々アリ故ニ我邦人又ハ他ノ歐米人ニテモ我邦郵船ニ托スル郵便物ニハ最初我邦ノ郵便切手ヲ買置キテ之ヲ貼付シ出帆ノ際ニ臨ミ之ヲ船中ノ郵便箱ニ投ズルモノ多シ現今本港ト日本トノ定期便船ハ毎月二回ニシテ東京ニ達スルニハ凡ソ十二三日ヲ要ス其迅速ナル素ヨリ露國郵便ノ比ニアラズ
郵便取扱ハ祝日及ヒ日曜ハ午前九時ヨリ同十二時マデ平日ハ午前八時ヨリ午後二時迄トス而シテ全ク之ヲ取扱ハザルハ皇帝及ヒ皇后兩陛下ノ命名日、

○郵便ノ休日

新年、「パスハ」祭日、洗禮祭ノ第一及ヒ第二日、三位一體祭及ヒ「クリスマス」祭ノ第一日トス
電信事務ハ甚ダ繁忙ナレモ稍々整頓スルモノ、如シ歐米ト支那、日本間ニ往復スル通信ハ悉ク本港及ヒ長崎間ノ海底線ヲ經、悉比利內地ノ陸線ヲ通過スルヲ常トスルカ故日々ノ通信七八十通ニ下ラズ郵電局内ニ丁抹大北電信會社ノ出張所アリ

○電信事務

電信料ハ悉比利內地一語五哥、歐路一語十哥ニシテ外ニ一音信ニ十五哥ツ、ノ手数料ヲ徵ス日本ヘノ發信ハ是マデ一語〔露字若クハ羅馬字ヲ用ヒ〕二留八十三哥ニシテ頗ル高直ナルヲ以テ商估等ハ之ヲ利用シ難キノ事情アリシガ本年八月ヨリ之ヲ低減シ一語一留四十四哥ト改メ是レ實ニ商業其他交通上ニ便利ヲ與フルヲ決シテ鮮少ナラズ

○電信料

本港ニ於テハ未ダ市内電信ノ設ケナシ只ダ港灣ノ沿岸ニ架設シ各處ニ離散スル兵營及ヒ砲臺ヲ聯絡スル軍用電線アルノミ又電話線ヲ架スル場處アレハ是レ亦軍用ニ供スルモノニシテ普通ノ使用ニアラズ

○軍用電信及電話

第十五 航通及運搬

浦湖斯德港ハ嚴冬ニ及ベバ港灣一面ニ氷結スルヲ以テ年内航通ノ時期ハ通常三月下半ヨリ十二月上半ニ至ルノ間ニ在リ而シテ本港ニ出入スル船舶ハ露國ノ軍艦ト商船ヲ除クノ外日木、英、佛、獨、米、丁抹、瑞典、諾威等ノ商船時々來航

○航海期節

○外國商船

○露國商船

ス其内本港ニ定期航海ヲ爲スノ外國商船ハ獨リ我郵船會社ノ漁船ノミニ
 テ其他ハ皆ナ必要ノ時機ニ臨ミ隨時來航スルモノナリ
 露國商船ニシテ定期航海ヲ爲スモノハ義勇艦隊（後段之ヲ）ト「ゼウエリヨ
 フ」商會ノ漁船ノミニ此「ゼウエリヨ」フ「商會」ハ特ニ本國政府ノ保護ヲ受ケ航海
 哩數ニ應ジ一哩三留ノ補助金ヲ得ルモノナリ而シテ之ニ屬スル漁船ハ「パイ
 カル」號（噸數八）「ウラヂイミル」號（噸數八）「ストレローク」號（噸數三百）及「ノ
 井ク」號（噸數二百五）等ナリ其内「ウラヂイミル」號ハ本年開航來上海浦潮間ノ定期
 航海ニ從事シ途中朝鮮諸港及ヒ長崎ニ寄ス「パイカル」號及「ストレローク」號
 ハ北方韃靼海峽ニ航行シ薩哈連島及ヒニコライフスク「地方」ノ運輸ニ從フ而
 シテ「ノ」ウキク「號」ハ南方諸港即チ沿海州沿岸航海ニ從事スルモノナリ尙ホ
 此他ニ漁船「ベリ」號（噸數八十）及「風帆船」エミ「リヤ」號（噸數三百三十）アリ故ニ同
 商會ハ殆ンド本港近邊ニ於ケル航權ヲ其掌裏ニ把持スルノ觀アリ
 浦潮新德近海ノ回漕業ニ從事スルハ露人、支那人若クハ朝鮮人ニシテ殊ニ支
 那人ニ多シトス各市内商館ニ屬スル小漁船及ヒ露人ノ所有ニ係ル外輪小漁
 船「スイフン」河ヲ往復スルモノアリト雖其數甚ダ僅少ナリ而シテ支那人
 及ヒ朝鮮人ノ船船ハ悉ク自國風ノ帆船ニシテ近海ニ來往シテ貨物ノ運搬ニ
 從事ス此等ノ船舶ハ千八百八十一年ニ於テ既ニ大小七百艘アリシト云ハバ
 現時ハ多少其數ヲ増加セシナラン又港内ノ交通ニ從事スル解船業ハ全ク支

○近海ノ交通

○支那解船

那人ノ專有ニ飯々同年ノ調査ニヨルニ既ニ二千有餘隻ノ多キニ及ベリ
 支那人ノ解船ハ長楕圓形ニシテ其甲板周邊ニ幅一尺許ノ避波板ヲ平面ニ付
 若シ恰モ縁側ノ如クシテ而シテ高サ五寸許ノ厚板ヲ以テ内部ノ周邊ヲ圍繞シ
 之ヲ離隔ス故ニ甲板上下ヨリ之ヲ見ルルハ甚ダ狹隘ナルガ如クナレバ實際船
 内ノ容積ニ至テハ却テ餘裕アルモノ、如シ此解船ハ悉ク厚板ヲ以テ之ヲ造
 リ頗ル堅牢ノ構造ナルヲ以テ暴風激浪ニ遇フモ顛覆ノ虞ナキノミナラズ風
 ナマ時ハ之ヲ漕ギ（船ヲ使川スル法ハ）「風アルル」ハ帆布ヲ利用スルヲ得進
 行モ亦甚ダ迅速ナリ之ニ從事スル支那人ハ多ク船内ニ炊器其他ヲ具ヘ之ニ
 寢食起居スルノ状態ハ恰モ各自ノ住家ト一般ナリ

○解貨

○市中往復ノ馬車

解貨ハ海軍參謀部ノ阜頭ヲ境界トシ港灣ヲ東西ノ二區ニ分チ一區内ハ片道
 晝十哥夜二十哥トス若シ東西二區ニ跨ルルハ舟程ノ遠近ニ關セズ晝二十哥
 夜四十哥又時間ヲ以テ之ヲ備フルハ一時間晝三十哥夜五十哥トス
 街上ニハ四輪馬車多ク以テ市内ノ交通ヲ便ニス此馬車ノ構造ハ甚ダ輕便
 ニシテ前輪ハ小ニシテ後輪ハ大ナリ前輪ノ上部ニ馭者ノ掛蓋ヲ裝置シ後輪
 ノ上ニ乘客二人ヲ容ルベキ腰掛（ソール）「ハ」ノ「休」アリテ前後兩輪ノ隙處ヨリ昇
 降スルモノナリ馭者ハ概シテ顔ノ露人ニシテ鬚髮蓬々紅更紗ノ服裝ニ天鷲
 絨ノ短朋衣ヲ穿テ頭上ニ黑帽ノ低キモノヲ戴ク其状態ハ恰モ大猿ノ洋裝ヲ
 着ケ悉氣揚々スルニ似タリ此種ノ馭者ハ各自馬車ノ前頭ニ駕シ街巷ノ廣場

○馬車賃

ニ控ヘ以テ乗客ヲ待ツ馭者ハ自カラ乗車ヲ勸誘セズ客ノ指願ヲ待テ之ニ應ズ車ハ美麗ナラザルモ亦陋穢ナラズ概テ二頭引ニシテ街路ノ高低ヲ顧ミズ雨天ノ泥濘ヲ厭ハズ頻リニ輕快ニ馳驅ス

市内馬車賃ハ殆ンド市ノ中央ニ位スル海軍俱樂部ノ建物ヲ境域トシテ東西ノ二區ニ分チ一區内ハ遠近ニ係ハラズ一度二十哥トシ二區ニ跨ルルハ之ヲ倍ス又時間ヲ以テ之ヲ備フルハ一時間八十哥ヲ定價トス而シテ三十分間以内ハ一時間ノ半額ヲ拂ヒ之ニ超過スルルハ全一時間ノ賃銀ヲ拂フモノトス近頃市廳ハ馬車賃ヲ今日ノ價格ニ低減セシテ以テ廢業者ハ多ク夜中ハ十一時ヲ經過スレバ之ニ駕スルコト頗ル困難ナリ

○市内ノ運搬者

市内ノ運搬業ニ從事スル一種特殊ノ「カアウーリ」ト呼ブモノアリ今日ニ在テハ「カアウーリ」ト云ヘバ朝鮮人ノ總稱ノ如クナレドモ其實然ラズ蓋シ支那地方ニ於ケル英語「クーリー」(Coolies)ナル人足ノ意味ヨリ轉化シ來リタル譯語ナリ此「カアウーリ」即チ朝鮮人ハ其本國及ヒ黑龍灣ノ西北岸ナル諸村落ヨリ移住セシモノニシテ會テ人足組合ヲ組織スルノ計畫アリシガ遂ニ成就セズ目下ハ各自單獨ニ運搬ニ從事セリ元來北地ニ住スル朝鮮人ハ性質蠢愚ニシテ忍耐力ニ富ミ寒暄ヲ意トセズ常ニ褊狃的ノ白衣ヲ着シ襤褸ノ隙隙ヨリ肌膚ヲ露出シ背後ニ彎形ノ擔具ヲ負ヒ埠頭近邊ニ徘徊シテ客ノ需求ニ應ズルノ状態ハ甚ダ憐ムニ堪ヘズモノアリ彼等ハ貨物ノ運賃ニ定價ヲ立テザルガ

○用水配達

故時トレテ一布ノ重物ヲ二三露里ノ遠距離ニ運搬シ幾カニ五哥ヲ拂フテ之ヲ救還スルガ如キ殘虐ナル客ニ遇フコトアルモ敢テ抗言ヒザルモノアリ其寡慾ナル知ルベシ然レモ近來ハ彼等モ亦多少考フルトコロアリテ最初賃銀ヲ定メザレバ之ヲ擄ハザルニ至レリ

此「カアウーリ」ノ數ハ夏ヨリモ寧ロ冬間ニ多シ蓋シ春夏秋冬ノ三季ハ各近郊ニ入りテ耕耘ニ從事シ冬季ヨリ春季ニ及ブ迄閑隙アルニ依ルモノナラン此種ノ運搬者ハ市民ニ便益ヲ與フルコト少ナカラズ元來市内ニハ運搬會ナク又荷車ヲ備フコト難ク且ツ高價ナルヲ以テ中流以下ノ家族轉宅等ノ場合ニ於テハ最モ便利ナリ

○驛傳馬車

飲料水ノ運搬配達ハ支那人專ラ之ヲ掌ドル彼レ等ハ棍棒ノ兩端ニ石油ノ空函(鐵葉製)一個ヲ懸ケ之ニ水ヲ盛リテ肩ニ擔ヒ之ヲ戶毎ニ運ブ賃銀ハ遠近ニ因テ差異アリト雖モ大約二三人ノ家族アル家ニ運ブ賃銀ハ一箇月五十哥乃至一留五十哥彼等ハ爭フテ便利ナル一井ニ群集シ互ニ先ヲ爭ヒ同僚ヲ排シテ之ヲ汲取ラントシ喧噪スルノ状態ハ怡モ群犬ガ一片ノ肉ヲ爭フテ喧鬧スルガ如ク其極遜ニ一井ヲ擾濁シ乾涸セシムルニ至ル

驛傳馬車ハ悉比利旅行上ノ一大要具ニシテ本港ヨリ悉比利內地ニ通ズル官道ニ於テハ十二三路里毎ニ驛舍ヲ設立シ各驛四個ノ驛傳馬車ヲ備ヘリ此馬車ハ一露里馬一頭毎ニ三哥ノ運賃ヲ徴シ急行ナレバ馬數頭ヲ増加シ每頭定

類ノ貨錢ヲ拂ヘバ可ナリ此馬車ハ通常三頭若クハ二頭曳ニテ馳走頗ル迅速ナリ

第十六 鐵道

○鐵道布設ノ建議者

悉比利鐵道布設ノ必要ヲ稱道シ露政府ニ向テ之ヲ建議セシハ實ニ東悉比利總督イグナチーフ將軍ト黒龍政區總督男爵「コルツ」氏ヲ以テ嚆矢トス爾來世上ノ一大問題トナリ之ガ利害得失ヲ論ズル久シカリシガ露國政府ハ遂ニ技師ヲ派遣シ實地ニ就キ踏査セシ調査委員及ヒ工學協會ヘ諮問シ充分ニ審查討究セシメテ末遂ニ今日ノ結果ヲ見ルニ至レリ

○鐵路ノ決定

最初ハ單ニ軍略上必要ノ場所若クハ漁船ノ便ナキ場所ニノミ之ヲ布設セントノ議ナリシガ遂ニ全悉比利ヲ貫通スル一線連綿タル不斷鐵路ヲ布設スルヲ決定シ茲ニ皇帝陛下ノ勅裁ヲ得タリ本年五月皇太子殿下ノ東遊ニ際シ殿下親臨自カラ之ガ基礎式ヲ舉行セラレタリ先ヅ第一着ニ烏蘇里鐵道ト稱スル浦潮新德ヨリ「ハヤロフカ」府ニ連絡スル浦潮港「グライフスカヤ」埠頭「ラフス」カヤ埠頭「ハ烏蘇」間ノ線路布設ニ着手セリ而シテ其工事ハ囚徒及ヒ兵卒凡ソ千四百人外ニ支那人及ヒ朝鮮人數百名ヲ僱使シ現今本港ヲ距ル四五十露里間ニ於テ專ラ地盤ヲ平均シ橋梁築造等ニ從事スレド未ダ鐵軌ヲ布設スルノ運ニ至ラズ

○工事ノ着手

○布設案

悉比利鐵道ノ設計案ニ依ルニ延長七千四百九十露里布設費三億四千萬留ノ

豫定ニシテ莫斯科浦潮間ニ於ケル貨物運搬ノ速力ハ往復七十九晝夜貨物ノ最低運賃ハ一布ニ付三留七十三哥ノ豫定ニシテ客車ノ速力ハ十五晝夜ヲ要スト云フ而シテ竣工ハ千八百九十四年ヲ期スト雖モ實際ニ至ラハ決シテ如此キ神速ナル成功ヲ見ル能ハザルヤ明ケレ露人ノ說ニ據ルニ全悉比利亞ニ聯綿タル鐵路ヲ見ルハ蓋シ少クモ向後十五年ヲ經過セザルベカラズト云フ

第十七 義勇艦隊

○義勇艦隊ノ設立及職務

露國義勇艦隊ナルモノハ千八百七十八年露土戰爭ノ后有志者ノ義捐ヲ以テ創立シタル結社ニシテ本社ヲ露都ニ置キ支社ヲ露國通商ノ要港タル「痢德沙」及ヒ浦潮港ニ置キ平時ハ專ラ東洋諸港トノ航海ニ從事シテ貿易ノ發達ヲ補助シ兼テ本港軍用及ヒ住民ノ需用物品ヲ供給ス殊ニ東悉比利ニ送致スル兵卒及ヒ囚徒ノ運搬ニ從事スルモノ一朝干戈ヲ動カスニ及ンデハ同艦隊ノ船ハ悉シ軍旗ヲ翻揚シテ海軍ノ願使ニ供ヒラルハモノナリ該社ハ政府トノ規約ニヨリ痢德沙港ト東洋諸港トノ間ニ毎年七回以上ノ定期航海ヲ爲スヲ以テ一海里ニ付四留二十哥ノ補助金ヲ得然レモ一箇年ノ補助總額ハ六十萬留ニ超過スルヲ許サズト云フ

○政府ノ保護金

現時同社ニ屬スル船數八隻ニシテ其船名及ヒ噸數ハ左ノ如シ

「アリオール」號

六、〇〇〇噸

「ロイヤ」號

一、八六四噸

「ベタルブルグ」號	一、六三五
「モスクワ」號	二、二九一
「カストロマ」號	二、三一六
「ニーシニ、ノールウゴロド」號	一、七四〇
「ヤロスラーウリ」號	一、一三一
「ウラヤチナストツク」號	八三〇
計	一七、八〇七

前記八艘中「アリヨール」號ノ噸數ハ總噸數ニシテ其他ハ皆ナ登簿噸數ナリトス「アリヨール」號ハ同艦隊船舶中ノ巨擘ニシテ長サ四百十呎、幅五十二呎、速力十八「ノット」、上等客室四十、下等客二千八人ヲ搭載シ得ベシト云フ
千八百八十一年ヲ以テ義勇艦隊ガ航海ヲ開キヨリ本港ノ直接及ヒ間接ニ享有セシ利益ハ甚ダ偉大ナルモノニシテ本港ノ隆盛ヲ促ガシ物價ノ低落ヲ來セシ等其効績擧ゲテ數フベカラズ

第十八 貿易

浦潮斯德ハ素ト軍港ニシテ通商港ニ非ザルヲ以テ其貿易ハ一種特別ナル性質ヲ有スル者ノ如シ蓋シ本港ノ隆盛ハ商工業ノ發達ニ連帶セル結果ニ非ズシテ全ク露國政府ガ施政上ノ方針ニ基クモノナルガ故商業モ亦自然軍事ノ臭味ヲ帯ヒ他ノ貿易市場ニ於ケル商業ノ要素タル活機ヲ備具セザルガ如シ

○本港貿易ノ特質

○輸入

然レ本港ノ貿易額ハ其巨口ノ増殖ト内地ノ開發トニ連レテ逐年増加スルノ傾向アリ而シテ輸入品中重要ナルモノハ米、麥粉、鹽及ヒ雜貨ナリ今千八百七十七年已降隔年ノ輸入額并ニ最近三年間ノ輸入額ヲ擧グレバ左ノ如シ

千八百七十七年	一、〇五二、五三六
千八百七十九年	一、六七四、四八一
千八百八十一年	三、一一五、一九九
千八百八十三年	二、九三五、四二五
千八百八十五年	五、三四九、六七六
千八百八十六年	五、七〇六、五四三
千八百八十七年	五、七三六、五一三
千八百八十八年	五、九七八、九一三
千八百八十九年	五、七八二、〇三六

此ノ如ク逐年輸入ノ増加ハ以テ本港ノ開始ト需用ノ程度ヲ窺フニ足ルベシ故ニ近來輸入年額ハ概テ六百萬留内外ト假定スルヲ得ルモ輸出額ニ至テハ頗ル僅少漸ク十五六萬留以上ニ超過スル能ハズ亦以テ本港及ヒ近傍地方ノ生産力ニ乏シキヲ知ルベシ千八百八十九年ニ於ケル輸出額ハ十四萬六千七百六十八留ニシテ其主位ヲ占ムルモノハ昆布、海參、鹽魚、材木、鹿袋角、獸皮等ナリトス

○輸出

茲ニ又最近四箇年間ノ入港船舶及ビ噸數ヲ擧グレバ左ノ如シ

千八百八十七年	八十九艘	八二、七六二
千八百八十八年	九十一艘	七八、五七六
千八百八十九年	九十七艘	八一、五〇三
千八百九十年	百十五艘	九八、五二八

○外國商店ノ方略

本港商店ノ重ナルモノハ獨商アリベルス「商會」同「ラッゲリチエ」商會及ビ露商「チューリン」商會等ニシテ皆一等商業鑑札ヲ有スルモノナリ此商會ハ其本店若クハ店主ヲ本國ニ置キテ商品ノ注人ヲ爲シテ而シテ東悉比利各地ノ都邑ニ支店ヲ設ケ以テ商品ノ流通ヲ計ルコト恰モ首領根據ヲ歐洲ニ置キ腹背ヲ本港ニ据ヘ四肢ヲ各都邑ニ動カスガ如ク其利益ノ大ナルヲ知ルニ足ラン惟フニ是レ本港需用ノ途頗ル狹隘ナルヲ以テ勉メテ需用ノ區域ヲ擴充スルノ方策ナラン此ノ獨露各商會ハ何レモ當地方商業界ノ實權者ニシテ獨商ハ露商ニ凌駕スル一層ニシテ殆ソド其霸權ヲ握ルノ實想アリ且ツ前述獨商會ノ支配人ハ皆ナ露國臣民ニ歸化セシモノニシテ蓋シ營業上ノ便利ヲ慮カリシモノナラン

○日本商

本港ニ日本商店七戸アリ其内杉浦商店ハ一等商ノ鑑札ヲ有シ略ボ露獨商ト對峙スルヲ得ベケレシ其他ハ悉ク二等商ニシテ概テ資本ニ乏シク大ナル取引ヲナス能ハズ其内獨リ加藤商店ト稱スルモノ稍ヤ外人ノ信用ヲ博ヒリ

○日本商經營ノ輸入品

最近二箇年間ニ於ケル日本商ノ輸入セシ貨物ノ原價額ヲ擧グレバ左ノ如シ

千八百八十九年	二二七、六一四、九五
千八百九十年	二一〇、五〇九、四四

昨年度ハ前年度ニ比スレバ輸入額稍減少セント雖モ是レ其重要品タル酒類ニ課稅サレタルト二三商品ノ輸入ナキニ基クモノニシテ其他ノ貨物ニ至テハ却テ前年度ニ超過セシノ傾向アリ今參考ノ爲メ輸入品目ト價格ヲ擧グレバ左ノ如シ

品目	千八百九十年	千八百八十九年
白米	三六、五三二、八〇	一九、二三九、八九
麥粉(水車及ヒ機械製)	八、八五二、〇〇	四九、三五九、六三
糯米	九二〇、〇〇	一、三三七、七〇
醬油	六、一五七、八〇	二、七五二、四五
酒	一、七九三、四〇	七、七〇〇、八五
鹽	五六四、〇〇	四七九、七〇
雜穀	八七一、四〇	五二二、一六
食品	四、四二〇、一〇	七、二五八、六六
平野礦泉	一、六一五、〇〇	〇
菓物ノ類	四、八一六、〇〇	三、二七七、四二

絹製蒲團、寝衣、肩掛	八、七一九、二〇	八、五九二、〇〇
絹細工物	二、七九一、八〇	四、九二八、六〇
綿織物	一九、一七六、四〇	一七、〇七四、七〇
綿織物	八、六一六、五〇	四、一八九、七三
雜貨	八五、七八九、八二	七九、三四六、二七
金、銀、銅、鍍甲細工	五、三二七、一〇	六、四二五、九四
家具	二、一一六、〇〇	二、六二〇、八〇
漆器	三、六三四、七〇	六、一七〇、〇〇
陶磁器	二、五八〇、九二	五、二二二、四五
磚茶	三、五九七、〇〇	七〇〇、〇〇
紅茶	一、六一七、〇〇	三五〇、〇〇
合計	二一〇、五〇九、四四	二二七、六一四、九五

之ヲ要スルニ本港貿易ノ趨勢ハ戸口ノ増殖ト共ニ隆盛ヲ極メ最近三四年間ニ於ケル輸入貨物ノ價額ハ平均六百萬留内外ノ巨額ニ達セリ然レモ如何セシ土地廣漠人口稀薄ナル東悉比利内地ニ在テハ産業ノ途未ダ起ラズ交通ノ便未ダ開ケザルニヨリ輸出品ニ乏シク隨テ來航船舶ノ載貨ナクシテ貿易ハ所謂ニル片道ノミニ止リ自然活動ノ力ヲ失ヒ又輸入貨物總額中近郊諸村落ノ需要ニ供スルモノハ其三分ノ二ヲ占メ其他ハ悉ク本港ノ需求ニ充ツルモ

商業ノ現況

○商賣ノ方法

○本港貿易ノ定義

ノナルヲ以テ貿易ノ範圍甚ダ狹隘ニシテ貨物ノ運融ニ敏活ヲ欠キ一般商業界ノ定規ニ悖戻スル事態鮮少ナラズ
 譬ヘバ諸式非常ニ高直各店ノ賣價ニ不同多ク殆ンド物價ノ標準ナキモノ、如シ此ノ一事ヲ以テ徵スルモ本市ノ商業ガ未ダ秩序ノ上ニ立タズシテ亂雜不軌ノ中ニ相場モナク定價モナク行ハレ、狀態ハ始メテ來航スル人ノ豫想外ニ出テ驚愕スルトコロナリ又本港巨擘ノ二三商店ニ到リテ見レバ店頭ニ展列スル物品、美術品、奢侈品ヨリ日用雜品、砂糖、蠟燭ニ至ル迄販賣セザルハナレ惟フニ本港ノ情況上卸賣問屋の專業ニノミ從事スルモ到底需用ト供給ノ平均ヲ失フテ収利ノ目的ヲ失フニ歸因スルモノナリ亦タ以テ本港貿易ノ幼稚ニシテ商業上ノ要素ニ欠ク所アルヲ徵スベシ故ニ本港ニ於テ手廣キ商業ヲ營マンニハ先ヅ政府ノ工事若クハ兵營糧食ノ調達等ヲ受負ハザルヲ得ズ然レモ此等ハ多年本港ニ住居シテ充分經驗ニ富ムノ商估ニアラザレバ巧ニ官吏ノ間ニ奔走周旋シテ常ニ好意ヲ專取スル寵商的ノモノニアラザレバ能ハザルモノアリ

本港貿易ノ情態既ニ斯ノ如ク需用供給ノ區域自カラ狹隘ニシテ若シ輸入ノ貨物ニシテ二三品ノ堆積スルアレバ忽チ賣捌口窒息シテ忽チ價格ノ低落ヲ來シ若シ貨物ニ欠乏ヲ告グレバ遽ニ暴騰スルガ如ク殆ンド端倪スベカラザルモノアリ市廳ガ薪材及ヒ牛肉等ノ價格ヲ一定シ市民ヲ保護スル策略ヲ取

○將來ノ冀望

ル所以ノモノ其已ムヲ得ザル事態ナルヲ知ルベシ左レバ本港ノ貿易ハ大商
 マラズシテ小商タリ問屋的マラズシテ小賣的ニシテ所謂之ハ小用ハ得ベキ
 モ大川スヘカラストハ本港現在ノ貿易ヲ形容スルノ確言ト云フベシ
 然レモ是レ唯ダ現時ノ情況ノミ以テ將來ヲ測定スルノ標準トスベカラズ彼
 ノ悉比利鐵道ノ竣工ハ此情態ヲ破壞シテ本港ノ商業界ニ一大革命ヲ來タス
 ベキモノニシテ之ガ變遷ノ程度豫メ今日ニ於テ測定スベカラザルモノアリ
 此鐵路ニシテ一朝開通スルニ至テハ東洋ト歐洲間ニ往來スル貨物ハ一度必
 ズ本港ノ關門ヲ經過シ且ツ本港ノ商海ニ淘汰セラルベシ今日迄ハ本港及ヒ
 近郊諸村凡ソ二三萬人ノ需用ヲ充シタル貿易モ遽ニ東悉比利九十萬人ノ需
 用ヲ充ヌスニ至ルハ今日ニ於テ之レヲ斷明レ得ベク從テ海陸ノ交通頻繁ヲ
 告グルニ及ンデハ物價ノ高直ヲ維持スル能ハズ始メテ正當ノ軌道ヲ踐ミ眞
 平ノ貿易市場ト化スル屈指レテ待ツベシ東洋貿易ニ從事スル者巨細ニ本港
 將來ノ成行ヲ鑑査シ今日ヨリ着手好季節ノ到來ニ準備セバ必ズ偉大ノ事
 業ヲ成ス決シテ難シトヒズ遠大ノ企圖ヲ抱キ將來ノ大成ヲ期スルハ寔ニ今
 日ニ在ルル也

第十九 諸稅率

○徵稅ノ寬裕

浦潮新徳ハ元來無稅港タリシモ畢竟露政府ガ夙ニ當地方ノ發達ヲ冀望シ勉
 メテ産業ノ隆興ヲ謀リ貿易ノ進歩ヲ期スルノ趣旨ニ外ナラズ故ニ爾後外國

○輸入稅率

ヨリ輸入スル酒類等ニノミ重稅ヲ賦課シ其他ノ貨物ニ至テハ頗ル寬裕ニシ
 テ輸入ノ手續モ非常ニ容易ナリシ然ルニ逐年貿易ノ進歩ト共ニ外國ヨリ輸
 送スルノ貨物益々多キヲ加フルニ及ヒ露政府ハ自國産品需用ノ途之ガ爲メニ
 追盛セラレンコトヲ慮リ爾來漸ク各種ノ輸入稅目ヲ増加セシモ畢竟自國産品
 ヲ保護スル爲メノ課稅ナルヲ以テ今尙ホ僅々タルニ過ぎズ
 今マ現行ノ輸入稅目ヲ列擧スレバ左ノ如シ

○露國沿海州諸港輸入稅目

品名	露量	稅額(金貨)
芋製、大根製其他各種物ヨリ製シタル蜜、砂糖及ヒ乳狀砂糖(俗ニ白下砂糖ト云フ)	「ブーイ」	一、二〇〇
菓子類及ヒ砂糖類、果物乃チ各種菓子、瓶及ヒ罐詰砂糖、煮果物、「リ キニール」、「ローム」、「カニヤク」、「酒漬果物及ヒ「チヨコレット」等	全	九、六〇
「ブリヤンニキ」及ヒ「スハリ」等(麵包菓子ノ類)	全	四、二〇
粉砂糖	全	二、〇〇
精製棒砂糖及ヒ水砂糖	全	二、九〇
「アラック」、「ローム」酒及ヒ佛製燒酎	全	一、一〇〇
穀物製「アルコール」質ノ飲用物、「リキニ ール」、「ウイスキー」、「ナリフキ」等	一擔	七五
但シ右酒類ハ樽或ハ罐等大ナル器ニ入レ輸入スルヲ禁ズ		
葡萄酒類	全	四〇
佛國セザルモノ(通常葡萄酒)	全	一、二五
佛國スルモノ(「シヤンパン」ノ類)	全	一、二五

○漁業税

蜜製酒ノ櫻酒、黒麥酒及ヒ麥酒
 「アムコーン」製及ヒ油製漆類
 石油
 摺附木
 日本酒
 紙巻煙草
 葉巻煙草
 葉煙草

但シ税金ハ總テ金貨ヲ以テ之ヲ納ム若シ紙幣ヲ以テ之ニ代納スルハ
 其倍額ヲ徴收セラル

輸出税ト稱スベキモノハ
 昆布 一布ニ付 紙幣五哥
 魚類 同 金貨五哥

ナレモ是レ素ト輸出税ニアラズ一種ノ國產税即チ採獲營業税ニシテ此税額
 ヲ納了セザレバ一切外國ニ輸出スルヲ許サズ故ニ商人ハ之ヲ名ケテ輸出税
 ト呼ブ又之ニ類スル海參、蟹及ヒ蝦ノ漁獲税ハ左ノ如シ

海參 漁船一艘ニ付一箇年 六留
 蝦及ヒ蟹 同 二十四留

○船舶出入諸税

船舶出入ノ際徴收セラル、諸税ハ
 排水容積
 船舶出入ノ都度 一「ラスト」ニ付 三〇哥(即チ一噸ニ付十五哥)
 一噸泊税トシテ
 出入貨物ニ 一「ブード」ニ付 二分ノ一哥(即チ一噸ニ付三十哥)
 一噸頭税トシテ 一噸ニ付 三〇哥

右ノ外貨物陸揚貨ナルモノアリ是レ貨物ノ積卸ヲ取扱フ商社ニ拂フモノナ
 リ其價格左ノ如シ
 貨物揚卸貨 一噸ニ付 一留六十哥
 但シ冬季ニ及ベバ三十哥ヲ増ス

浦湖新徳市ニ於ケル不動産税及ヒ商業税ハ
 不動産税 國税ニ屬スルモノ 土地家屋評價額千分ノ二、五
 市税ニ屬スルモノ 同上
 但シ此土地家屋ノ評價法ハ市會ノ決議ヲ經テ撰定セシ委員ヲシテ之ガ
 定額ヲ立テシム

一等商業税 年額 八九二、五〇
 同 艦札税 年額 二九、〇〇

○不動産税及商業税

○市場借店料
及雜拂料

同 市稅	八六、四五
二等商業稅	五八、五〇
同 鑑札稅	一四、〇〇
同 市稅	六、〇〇
小店營業稅	一六、〇〇
同 鑑札稅	二、六〇
一等職稅	一六、〇〇
二等職稅	一〇、八〇
三等職稅	四、五〇
一等手代稅	四二、〇〇
同 市稅	四、二〇
二等手代稅	七、二〇
同 市稅	一、二〇
行商稅	二四、四〇
煙草賣捌鑑札稅	一三、五〇
賣酒鑑札稅	七〇、〇〇
外ニ其市稅印紙稅其他トシテ	二四、二五
又市有ニ屬スル市場ノ借店料及々雜拂料ハ租稅ニアラズト雖モ商業者參考	九四留二五

ノ爲メ是ヲ付記ス

市場借店料

本店(四十八)一戸ニ付	年額 七〇〇留乃至五〇〇留
小屋掛店(十二)一戸ニ付	同 五〇〇留乃至四〇〇留
露店 店先「サーシエン」ニ付	月額 六留

但シ市場ハ長屋四棟アリ一棟ノ店數十二、各店間口ニ「サーシエン」興行三「サーシエン」

便所掃除料 一戸一人ニ付 半年 七十二哥
 煙筒掃除料 一個一回 十哥

但シ右二項ハ市廳ト受負人ノ條約ニヨリ之レヲ徵収ス

以上ノ諸稅中市廳ト收稅局ニ納ムルモノ二種アリ輸出入口稅ハ未ダ當港ニ稅關ノ設ケナキヨリ以テ收稅局ニ於テ之レヲ取扱フ昨千八百九十年中同收稅局ニ於テ徵收シタル關稅及ビ國產稅額ハ

關稅(輸出入稅)	金貨 一三、八五七、九四留	千八百八十九年	四、三三八、二七留
國產稅	紙幣 二五四、三八八、〇四	(同)	年 一九五、一二八、〇七

ニシテ之レヲ前年ニ比スレバ著シク増加ツ見ル

第二十 物價ト生計

前章ニ於テ浦湖斯德ニ於ケル商賣ハ規律ナク從テ物價ニ一定ノ標準ナク頗ル高貴ニ失スルヲ記述セント雖モ市中ノ秩序稍々整頓スルニ從ヒ物價モ

○物價ノ高低

○收稅局收入
年額

多少低落ヲ來タル少シク標準ヲ得ルニ至レリ今之レヲ事實ニ證明センガ爲メ千八百八十一年即チ今ヲ距ル十年前ニ係ル物價ト現時ノ物價トノ比較ヲ示スハ商業上ノ推移ヲ知ルベキ標準トシテ敢テ無益ナランコトヲ信ズ

品目	千八百八十一年	千八百九十年
借家 {間敷二個、或所付一ヶ月借料}	四〇、〇〇哥	二〇、〇〇哥
薪 {二「サージエン」}	八、〇〇	四、五〇 {本年ハ非常ニ騰貴シ九留内外ナリ}
牛肉(上等)	二「ブード」 八、〇〇	六、〇〇乃至七留
全(並)	六、〇〇	四、〇〇
豚肉(全)	全 一、二〇〇	八、〇〇ヨリ
鶏	一羽 一、〇〇	七、五
鴨	全 一、〇〇	三、〇乃至五〇哥
家鴨	全 二、〇〇	一、〇〇乃至一留五〇哥
鶯鳥	全 四、〇〇	二、五〇ヨリ
雉子	全 一、〇〇	二、〇乃至一留
七而鳥	全	一、二〇〇乃至一五留
豚子	二匹 一、五〇	一、五〇ヨリ
猪肉	二「ブード」	二、〇〇乃至四留
鹿肉	全	二、〇〇乃至四留

鶏卵	百個	冬季 五、〇〇 春季 二、〇〇 夏季 四、〇〇 冬季 二、〇〇	四、〇〇乃至一留五〇哥
牛乳	一壺	冬季 二、〇〇 夏季 四、〇〇 冬季 二、〇〇	一、〇乃至一留五〇哥
白米	全	二、五〇	一、八〇哥乃至三留
鹽	全	二、五〇	一、八〇乃至三留
砂糖	全	一、〇〇	七、五
蠟燭	一「フント」	三、〇	三、〇
洗濯石鹼	全	一、五乃至二〇哥	四、〇
石油	一函	四、〇	四、〇
「アルコー」	二「ウエーロー」	一、八、〇	一、八、〇
馬鈴薯	、四〇乃至一留	二、五乃至四〇哥	三、〇乃至五留
「カブリースター」	百株 一、〇、〇〇	三、〇乃至五留	三、〇乃至五留
大根及胡蘿蔔	二「ブード」 一、〇〇	四、〇乃至八〇哥	二、〇乃至八〇哥
葱	全 一、五〇乃至三留	二、〇乃至五留	二、〇乃至五留
玉葱	全 六、〇〇マデ	一、五〇乃至五留	一、五〇乃至五留
黃瓜	百個(八月初旬頃) 二、〇〇ヨリ	五、〇乃至一留五〇哥	五、〇乃至一留五〇哥
「マカロニー」	二「フント」 五、〇	二、五	二、五
燕麥	二「ブーヤ」 一、二、五	五、〇乃至一留	五、〇乃至一留

九太

〔厚サ六、ウエルシヨーク〕五、〇〇

三、五〇乃至四留

○生計上ノ便

前表ニ據ルニ物價ハ非常ニ低落ノ傾向ヲ現ハセドモ未ダ全ク他地方ノ如ク廉直ナルニ至ラズ千八百八十年頃ヨリ義勇艦隊ガ本港へ航通ヲ開ラキ需用品ヲ巨額輸入シタル以來漸次低落ノ徵候アリ然レモ尙ホ今日ノ高價ヲ保持スルヲ以テ薄給ノ吏員等ハ多額ノ負債ヲ擔ヒ大ニ困蹙スルモノ少ナカラズ本港ニ於ケル生計上ノ便利トモ稱スベキハ各商店ニ於テ買整ヒタル物品ヲ送届ケ呉ル、^一及ヒ支那人ヲテ日用必需ノ物品調達ヲ受負ハシムルハ適時之ヲ送付シ家族ハ外出ノ勞ヲ取ラズ坐シテ之ヲ得ベシ亦支那人ノ行商アリテ海外輸入ノ果物蔬菜及ヒ魚類ヲ各戸ニ賣來ツテ頗ル便利ナリ然ルニ又當地ニ於ケル不便ハ國立銀行、仲買人、公證人、辨護人、職工周旋所、市内郵便電信、上等湯屋、海水浴場等ノ設ケナキニ在リ又公衆ノ入院ヲ許スベキ病院ノ設ケナキハ最モ不便ヲ感ズル處ニシテ傳染病ノ如キハ海軍病院モ之ガ入療ヲ許サザルヲ以テ自宅療養ヲ爲サザルベカラズ此一事ハ貧民ニ取リ甚ダ危険ニシテ往々不幸ノ結果ヲ見ルコト多シ

○生計上ノ不便

市廳ハ市民ヲシテ日用必需ノ物品ヲ成ベク廉直ニ購得セシメ或ハ此等物價ノ暴騰ヲ抑制センガ爲メ種々ノ方法ヲ廻ラヌモノ、如シ今其首ナルモノヲ舉グレハ牛肉、乾草及ヒ其他ノ物品ニ對シ豫メ價格ノ標準ヲ立テ其制限ヲ超過セザランノ或ハ薪材ヲ採伐貯蓄シテ市民ニ廉價ヲ以テ賣渡スノ法ヲ設ク

○市民保護ノ法

又牛疫等豫防ノ爲メ市街ヲ距ル三露里ノ處ニ家畜檢疫所ヲ設ケ獸醫ヲシテ之レガ健康ヲ證明セシム又市民保護ノ爲メ千八百八十七年ニ於テ無主犬八十九匹ヲ撲殺セシメタル等市廳行政ノ干涉スル處ニ一種奇態ノ趣アルヲ見ル

第二十一 協會

○黑龍協會

浦潮斯德市内各種ノ協會多シ就中黑龍協會ヲ以テ最モ有益ニシテ且ツ盛大ナルモノトス此協會ハ千八百八十四年ニ設立セラレタルモノニシテ其主眼ノ目的ハ全ク黑龍江地方ノ事項ヲ討究スルニ在リ故ニ本會ハ大ニ世人ノ協贊ヲ得遂ニ巨額ノ義捐ヲ集メ一ノ博物館ヲ設立シテ公衆ノ縱覽ニ供スルニ至ル此協會ハ臨時雜誌ヲ發兌シテ會員ガ總會ニ提出スル意見書及ヒ通信、各種ノ隨筆、黑龍史料、黑龍地方ニ關スル著述ノ批評及ヒ蒐集、委員及ヒ總會ノ報告、開會ノ記事等ヲ掲載ス〔此雜誌ハ材料ノ蒐マシムニ從ヒ發兌〕又前述セシ博物館ノ建物ハ軍務知事官舎ト相並ビ館内ヲ考古物部、植物部、動物部、礦物部及ヒ人種部ノ五部ニ分チ公衆ノ縱覽ヲ許スハ火金日曜日ノ午前十時ヨリ午後四時迄ニシテ無料ナリ現任會長ハ「マルガリート」氏ナリ

○演劇協會

演劇協會ハ中流人士ガ時々演藝ヲ爲スモノナリ此會ハ別ニ規則ヲ設ケザルヨリ一時閉會セシモ頃日之ヲ再興セリ然レモ未ダ隆盛ナラスト云フ現任會長ハ「スウフホテン」ナリ

○音樂協會
○遊獵會

音樂協會ハ少數ノ會員ヨリ成立シ時々相會合シテ奏樂ヲ爲ス
遊獵會ハ千八百八十八年一月十八日ニ創設セラレタルモノニシテ本市ニ於
ケル上流紳士ガ遊散ニ供スル爲メ「アスコリド」島ヲ麋鹿ノ獵獲場トシ又鳥蘇
里地方ノ獵獲多キ處ニ於テ時々遊獵ヲ催スコアリ本會ヲ保護スルノ人ハ「ア
レキサンデル、ミハイロウ井子」親王ナリ

○慈善會

慈善會ハ本市上流ノ人士及ビ衆庶ノ盡力賛成ニ依リ逐年盛大ニ起キ千八百
八十五年ニ於テ會館ヲ購買シ更ニ養育院ヲ創設シ男女十四名ノ孤獨癡疾ヲ
恤養セリ然ルニ其後孤獨者ノ養フベキモノナキヲ以テ暫ク之ヲ閉チ本會
ノ資金ヲ以テ市内ニ二個ノ貧民學校ヲ設立繼續スル等本會ノ功績甚ダ偉大
ナルモノアリ現任ノ會長ハ代理「イワノ」夫人ナリ

○赤十字社及
水難救濟會

赤十字社支社ハ千八百八十一年三月本港ニ創設セラレ水難救濟支會ハ同シ
ク千八百八十一年ニ創設シ一般水難者ヲ救濟スルヲ以テ其目的トス今「レ
チノエ」村及ビ「モンダグ」村ニモ之ガ出張所ヲ設立シ副會頭ハ海軍少將「エ
モラ」エフ「氏」ナリ

第二十二 俱樂部

○海軍俱樂部

海軍俱樂部ハ「スウエト」フランスカヤ「街」ナル海軍省用地ノ構内ニアリテ此俱樂
部ハ元來「ニコラ」エフ「ス」府ニアリシヲ鎮守府移轉ト共ニ本港ニ移リタルモ
ノナリ當初ハ古キ家屋内ニ假設セシモノ千八百八十五年ニ於テ今日ノ如キ露

○陸軍俱樂部

風ノ高館ニ改築シテ本會ハ毎年航海ノ開通ト共ニ太平洋艦隊ノ入港スル
頃ヨリ繁盛ニ赴キ而シテ冬季ハ俱樂部内ニ夜會、奏樂會、假裝舞踏會等ヲ催シ
又一週凡ソ一回ツ、種々ノ問題ニ關シ演説ヲ爲シ公衆ニ無料傍聽ヲ許ス
海軍ノ籍ニ在ルモノハ總テ該俱樂部員タルノ義務ヲ有シ上長官ハ年費拾八
留士官ハ拾貳留ヲ納ムルノ成規ニシテ之ヲ以テ其維持費ニ充ツ又海軍部外
ノ人ニシテ市内ニ常住スルモノハ平素ト客員トシテ出入スルヲ得ルモ豫メ
會員全体ノ投票ヲ以テ之ヲ可決スルノ手續ヲ要ス又其俱樂部内ニ書籍室ヲ
設ケ書籍、新聞及ビ定時刊行物等ヲ備ヘ毎日午后四時ヨリ六時迄部員ノ縱覽
ニ供ス

○番頭俱樂部

陸軍俱樂部ハ會テ存在シモ一時之ヲ閉鎖シ漸ク千八百八十九年ニ於テ再
ビ之ヲ興シタルモノナリ本部ハ第一、第五東悉比利步兵大隊營ト併列シタル
建物内ニアリテ會員ハ軍人ニ限り各自俸給ノ千分ノ七、五ヲ贈出シテ其維持
費ニ充テ而シテ陸軍部外ノ人士ヲ部員ヲラシムルニハ頗ブル困難ナルノ成
規アルヲ以テ海軍俱樂部ニ比スレバ軍人外ノ入會員甚ダ鮮少ナリ且ツ一週
凡ソ一回ツ、踏舞會若クハ骨牌會等アレモ未ダ玉突盛モナク書籍室ノ設ケ
ナク海軍ノモノニ比スレバ内部ノ体裁等遙カニ劣等ニ位ス
番頭俱樂部ハ本港ニ於ケル商人及ビ番頭社會ニ從來行ハレタル盤居主義ヲ
破壊セシ爲メ設ケタル團體ニシテ千八百九十年ニ創立セラレタリ此俱樂部

ハ「ゴスピタリナヤ」街ニ在リテ玉突き臺等ノ遊具モ備ハリ料理モ出來又小圖書モアリ且ツ會員ハ番頭ナラザルモノモ會員ノ投票可決ヲ經テ入會ヲ許諾シ又會員ガ緩急相救済スルノ目的ヲ以テ資本ヲ貯蓄スルノ方法ヲ設ク

第二十三 演劇ト馬戲

○劇場

浦潮斯德ニハ定連ノ俳優ナキノミナラズ彼ノ演劇協會ノ組織屢々變更セシガ爲メ從テ劇場モ各處ニ變轉スルコト多シ最初ハ「ガレスキー」氏ノ家ヲ以テ之ニ充テ又ハ時トシテ海兵團ノ建物内ニ於テ之ヲ催セリ然ルニ海兵團ハ市街ノ邊隅ニアリテ距離遠隔ナルヲ以テ近時ハ「ガレスキー」氏ノ家ニ一定シ此レニ舞臺ヲ設置セリ劇場ノ正面ニ一個ノ舞臺ヲ設置シ其前面ナル廣濶ナル場所ニ椅子ヲ併置スルコト七列一列幾十ノ椅子ヲ配置ス入場料ハ即チ椅子料ニシテ第一列ハ四留第二、三、四列ハ三留第五、六、七列ハ貳留五拾哥ナリ此演劇ハ隨時舉行スルモノニシテ亦時ニ假裝舞踏會ノ催アリ

○入場料

○馬戲

馬戲ハ時々歐露ヨリ曲馬來航シテ技藝ヲ演ズルコトアレモ未ダ定リタル戲場ナシ

第二十四 旅館及料理店

○旅館ノ欠乏

浦潮斯德ニ旅館ノ設立ヲ見レハ實ニ近時ニ在リ從前本港ニ遊行スルノ人士ハ概チ知己ノ家ニ寓レ或ハ他人ノ紹介ヲ受ケテ一私人ノ家ニ宿スルノ外ナシ露人モ亦一般ニ遠來ノ旅客ヲ珍愛シ勉メテ之ヲ優待センコト好ムノ癖アリ

ルヲ以テ容易ニ相當ノ宿泊所ヲ搜索シ無料ニ寢食スルノ便アリキ數年前迄ハ市内僅カニ二個ノ旅舎アルノミ且ツ客室頗ブル少ナキヲ以テ本港ニ來ルノ旅人ニシテ直チニ旅館ニ投ズルコトヲ得ルハ實ニ僥倖ナリシ
現時ニ在テハ旅館數個設立セラレタルヲ以テ往時ノ如キ不便ナシト雖モ素ヨリ歐洲各國ニ於ケル旅館ノ如キ便利ヲ有スルモノニアラズ僅カニ宿泊ノ用ヲ充スルニ而シテ當地ノ旅館ハ一般ニ狹隘ニシテ料理モ亦粗惡今其重ナルモノヲ舉グレバ「ゾロトイ、ログ」旅館ハ晝晚餐各一留ツ、ニシテ一箇月ナレバ「食卓料」一餐「四皿」二十五留ナリ「モスクリ」旅館ハ一箇月ノ室料及ヒ食卓料合セテ五拾五留「ウラヤオストツク」旅館ハ室料一日七十哥乃至貳留ヲ要ス「ホテル、ラヴェ」モ之ト同類ナリ
料理店ハ獨立ノモノ甚ダ少ナク前述ノ各旅館概チ之ヲ兼業ス一餐ノ價格各館通シテ凡ソ一留前後トス而シテ室料ハ通常ノ小室一日凡ソ一留ニシテ少シク休裁ヲ具ヘ稍々奇麗ナルモノハ凡ソ三留内外ナリ
獨立ノ料理店ハ只ダ「ムナール」ト稱スル一軒ノミ割烹ノ善長ナルヲ以テ有名ナリ其他ハ悉ク下等料理店及ヒ居酒屋ニシテ下等賤民ノ遊樂場ニ過ギズ概チ大形食卓ノ周圍ニ空樽ヲ配置シテ之ニ踞シテ飲食スルノ光景ハ恰モ我東京ニ於ケル繩廬店ニ異ナラズ此頃「南島蘇里鐵道」ト稱スル輕便料理店ノ開業スルモノアリ料理甚ダ佳ナラズト雖モ安直ナルヲ以テ來客多シト云フ

○暖爐ノ種類

第二十五 浴場及海水浴場
浦湖新徳市中露西亞蒸風呂二三アリ其種類ニアリ一ハ暖爐ヲ以テ水函ノ水ヲ沸騰セシメ之ニ裝置スル管ヲ開ケハ蒸氣忽チ浴場ニ充塞ス又一ハ暖爐中ニ燒石數個ヲ入置キ之ニ冷水ヲ投シテ蒸氣ヲ發膨セシメ共ニ蒸浴スルモノナリ然レモ浴室悉ク汚穢ニシテ之ニ慣レザルモノハ眩暈ヲ感ズルコト多シ浴價ハ一度五拾哥乃至貳留浴室ノ廣狹善惡ニヨリテ差違アリ

○海水浴場

海水浴場トシテ公衆ノ用ニ供スルモノナシ官設ニ係ルモノハ海兵團ト鎮守府司令官ノ官舎内ニ在リ又私有ニ屬スルモノハ「セウエレヨーフ」及「ビリン」ド「ゴルム」兩氏之ヲ有シ共ニ公衆ノ入浴ヲ許サズ

附録

○南烏蘇里地方諸村落戸口及里程

●スイフン區(區役所ハ「ニコリスコエ」ニアリ)

村名	戸數	男	女	計	(ニコリスコエ村ヨリノ里程露里)
ニコリスコエ	二〇五	六五七	六二八	一二八五	：
クラスマイ、ヤール	二四	七四	六五	一三九	一〇
アラズドリーリノエ	二二	六六	六〇	一二六	三六
ミハイローフスコエ	一〇二	三八〇	三五二	七三一	一四
パクローフカ	一四	二四一	二一九	四六〇	三〇
ストルーゴフカ	六六	二五一	二二三	四七四	三〇
ボリツリーフカ	三四	一一一	一一一	二二二	一一
ラコーフカ	四〇	一五五	一三七	二九二	二〇
グルホーフカ	二二	八四	六一	一四五	一五
ゴロディーチナヤ	二二	七二	五六	一二八	二六
チーシノ	一七	五八	五三	一一一	四八
ウオゾドゥキヂェンカ	五〇	二二三	一九一	四〇四	一一
合計	六六八	二、三七二	二、二五五	四、五二七	：

●ハンカ區(區役所ハ「カメニ、ルイパローフ」ニアリ)

村名	戸數	男	女	計	(カメニ、ルイパローフ村ヨリノ里程)
カメニ、ルイパローフ	未詳	一一六	八五	二〇一	...
トウリ、ログ	全	九八	九三	一九一	六〇
ウサギ	全	一六	一三	二九	五〇
イリイシカ	全	八九	八八	一七七	三五
トロイーツコエ	全	二〇一	一八七	三八八	三五
アストロハンカ	全	一六六	一五三	三一九	一七二
ノウオセリシチエ	三四	一一一	一〇三	二一四	一九
ジヤリコウオ	三七	一二四	一一三	二三七	三〇
レワ、ダ、バラバシヤ	三一	一一〇	九二	二〇二	九〇
ボホーフカ	一〇	二九	三〇	五九	五〇
ゴロヂー、チエ	六	一四	一八	三二	五〇
デウ井、ツア	一八	六二	六〇	一二二	二八
チエルニゴフスコエ	一一	四三	三一	七四	未詳
スパスコエ	二二	八三	七二	一五五	未詳
ホウキダンスコエ	未詳
合計	一七〇	一、二六二	一、一三八	二、四〇〇	...

●グリゴリエフカ區(區役所ハ「グリゴリエフカ」ニアリ)

村名	戸數	男	女	計	(グリゴリエフカ村ヨリノ里程)
グリゴリエフカ	三三	九二	八二	一七四	...
ノウオ、ファストコウ	二九	七四	八六	一六〇	一五
ウオズ子センスコエ	三六	一四一	一四二	二八三	一五
パフ、ローフカ	二四	六九	六九	一三八	一三
合計	一二二	三七六	三七九	七五五	...

●イワノーフカ區(區役所ハ「イワノーフカ」ニアリ)

村名	戸數	男	女	計	(イワノーフカ村ヨリノ里程)
イワノーフカ	二四	七二	九一	一六三	...
ニコラーエフカ	三四	九六	一〇一	一九七	一三
ヤリヤ、エフカ	三二	九五	九二	一八七	六
ペトロパウ、ローフスコエ	二八	六九	五八	一二七	二四
ダニ、ローフカ	一一	三三	三六	六八	三〇
リヤ、リ、チ	一〇	六〇	五一	一一一	三〇
ワル、ワ、ルカ	一六	五七	五一	一〇八	五〇
コル、デー、エフカ	一一	四〇	四三	八三	六〇
カザチ、エー、ウ、イ、チ、エフ(レフ河岸)	六

朝鮮人 (トプヘ河 畔ニ住ム) (調査未詳)

ツエムヘ區 (區役所ハ「シコトウオ」村ニアリ)

村名	戸數	男	女	計	(シコトウオ村ヨリノ里程)
シコトウオ (一名ツエムヘ)	六〇	一六八	一四一	三〇九	...
ムノゴウドリブノエ	一七	五七	六〇	一一七	陸路三〇
マイヒンスコエ	二五	一〇二	八七	一八九	陸路一八
ロマノーフカ	一八	五一	五二	一〇三	水陸二〇
レキーツア	一三	三九	三三	七二	...
ベトローフカ	三〇	一〇三	九〇	一九三	...
朝鮮人	二一	四七	三四	八一	...
合計	一八四	五六七	四九六	一、〇六三	...

スーチヤン區 (區役所ハ「ウラヂミロ」ニアリ)

村名	戸數	男	女	計	(ウラヂミロ、アレキサンドロースフコエヨリノ里程)
ウラヂミロ、アレキサンドロースコエ	四三	一三八	一〇八	二四六	...
ガルボーフカ	三六	一二五	一〇一	二二六	...
ノーフカ	四	二四	二三	四六	...
ウナレ	四〇	一三三	一二三	二五六	...

○從浦湖至東悉比利諸港航程

村名	戸數	男	女	計	里程
ベレキノ	二三	一一三	八八	二〇一	一八
フウイツカヤ	二五	七五	五六	一二九	二五
フロロフカ	二二	七九	七一	一五〇	五〇
朝鮮部落	三七	一一〇	九九	二〇九	三〇
新部落 (ヌウデミ河畔)	未詳	全	全	全	二〇
合計	二四〇	七九五	六六九	一、四六四	...
總計	一、五五二	五、八九三	五、二六〇	一一、二五三	...

●彼得大帝灣

村名	里程
モンダガイ	二六哩
レチノエ	三〇
スリヤウヤンスカ	五八
ボシエツト	七〇
ヌウチヤン (ナホツカ)	一二四
マンゴウーサ	六四

●日本海及韃靼海峽

村名	里程
オリガ	二〇四哩
コルサコーフ	五八〇

インペタトル灣
ドゥーエ
デ、カストラー
ニコライフスグ

六二四
七五四
七七四
八九四

○從浦潮至東洋諸港航程

元山 三二〇哩
釜山 六二六
上海 一〇二〇
芝罘 一〇八五

長崎(直航) 六八〇哩
長崎(釜山ヲ經テ) 七八九
馬關 五七〇

○東悉比利著名都邑ニ到ル里程

沿海州 ハヤロフカ 四六五英里
黒龍江州 プラゴウエチエンスク 九一〇
後貝加爾州 ストレチエンスク 一、四九〇
チルチンスク 一、五〇八
チタ 一、六七二
ウエルフチ、ウシンスク 一、九三一
イルクツク 縣イルクツク 二、一五五

○日露度量衡對照

●貨幣

留(百コペーキ)
ヌビキ

七拾五錢
七厘五毛

洋銀相場ノ高低ニヨリ一定セズ

●尺度

ヤージエン(七)「フット」若クハ三「アルレン」
フート (十二「ドイム」)
ドイム (十「リーニヤ」)
リーニヤ

七尺〇四分〇九毛
一尺〇〇五厘八毛
八分三厘八毛
七厘

アルレン(十六)「ウエルシヨク」若クハ二十「ドイム」
ウエルシヨク(二)「ドイム」四分ノ三

二尺三寸四分六厘九毛
一寸四分六厘六毛

●里程

ウヨールスト(五百「サージュエン」)
サージュエン

九町四十六間四尺
一間一尺

●面積

方ウヨールスト
アヤヤチン(二千四方「サージュエン」)
方サージュエン(四十九方「フット」若クハ九方「アルレン」)

百十四町七反二畝十三坪五合
一町一段四坪八合
一坪三合六勺

●斗量(水置)

ホーチカ	(四十「ウエドロ」)	二石七斗二升七合二勺
ウエドロ	(八「シトーフ」)	六升八合一勺八抄
ホルウエドロ	(二分ノ「ウエドロ」)	三升四合九抄
シトーフ		八合五勺二抄
ホルシトーフ	(二分ノ「シトーフ」)	四合二勺六抄

●同(穀量)

ラスト	(十二「チエトウエルチ」)	一石七斗四升五合五勺六抄
チエトウエルチ	(二「チシミナ」)	一斗四升五合四勺三抄
ラシミナ	(四「チエツトウエリク」)	七升二合七勺六抄
チエツトウエリク	(八「ガルチーツ」)	一升八合一勺八抄
ガルチーツ		二合二勺七抄

●衡量

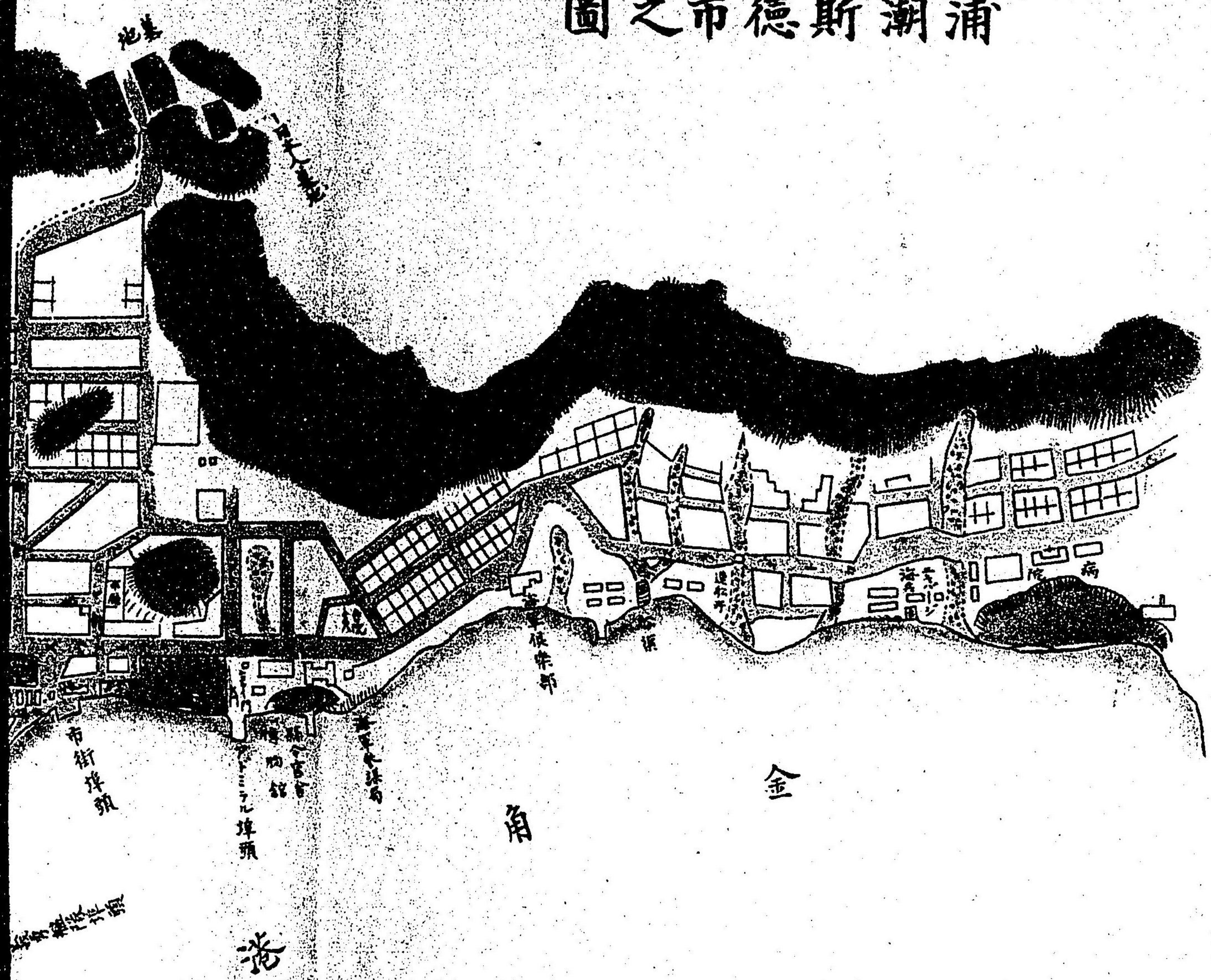
ペールコウエツ	(十「ブード」)	四十三貫六百四匁四分
布 <small>イ</small>	(四十「フント」)	四貫三百六十匁 <small>四</small> 匁 <small>四</small> 厘 <small>五</small>
斤 <small>リ</small>	(三十二「ロート」)	百九匁一厘一毛
ロート	(三「ソロトニーク」)	三匁四分六毛
ソロトニーク	(九十六「ドール」)	一匁一分三厘五毛

●貨物

一噸	(二分ノ「ラスト」若クハ六十「ブード」)	二百七十貫四百七十五匁五分二厘
一担 <small>コ</small>	(三「ブーヤ」二十七「フント」)	十六貫九十九匁七分三厘

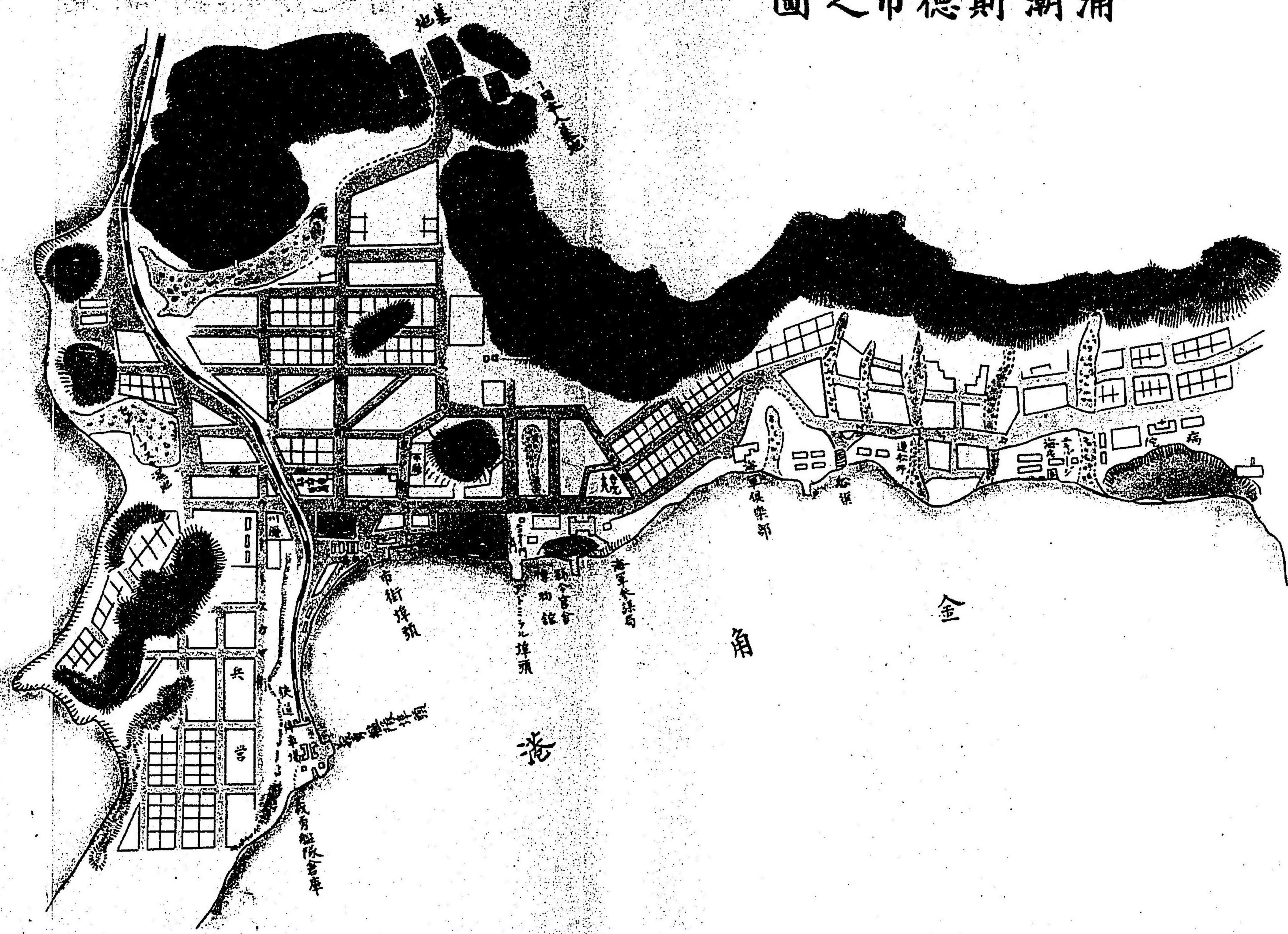
一厘二毛

浦潮斯德市之圖



浦潮斯德市之圖

黑
龍
灣



金

角

港

市街

街

路

橋

門

塔

廟

寺

館

堂

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

館

院

園

亭

台

樓

閣

軒

齋

室

堂

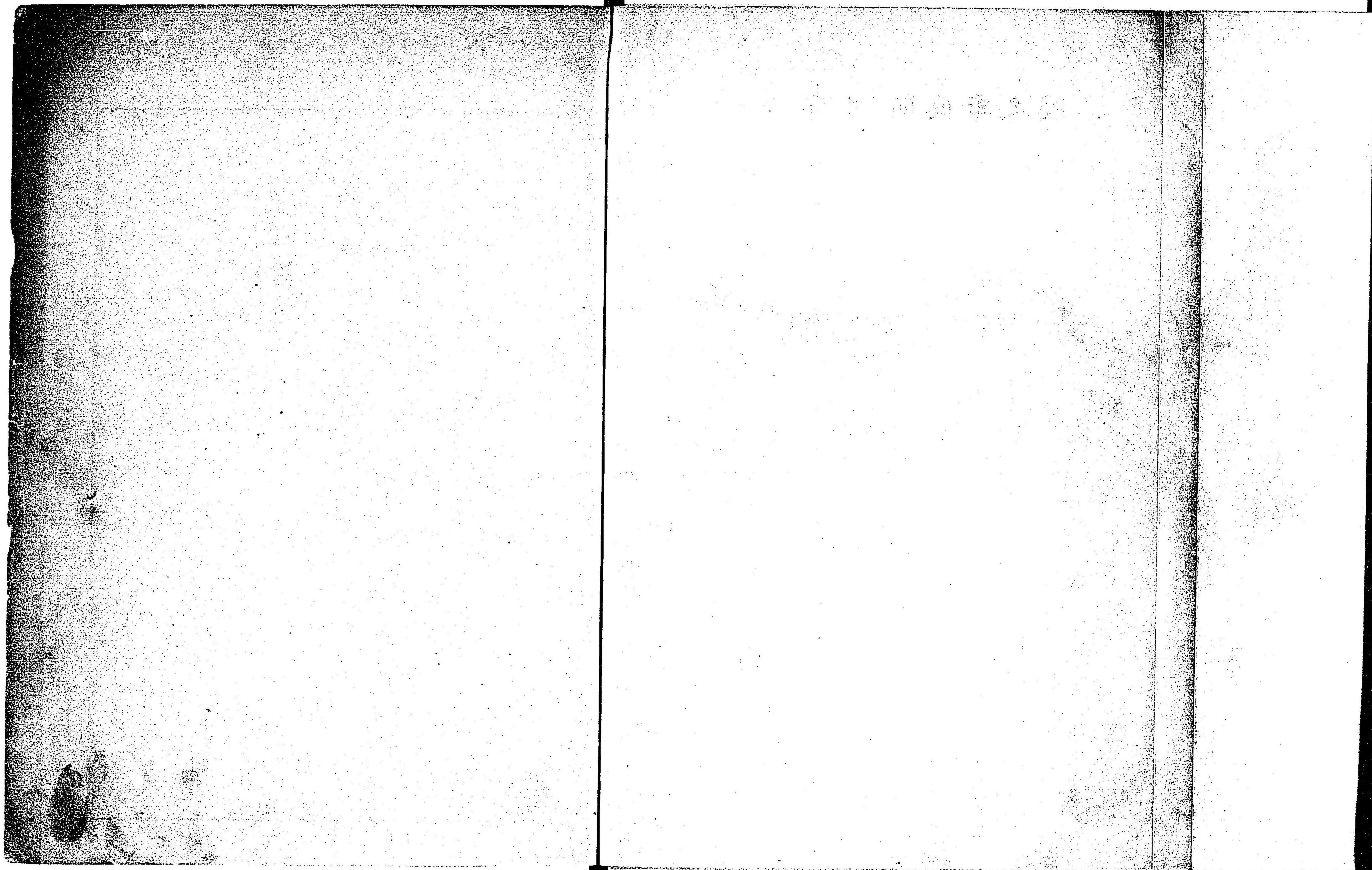
館

院

園

亭

台



明治二十五年六月二十一日印刷
 明治二十五年六月二十三日出版

正價三十五錢



著述者

新潟縣士族

川上俊彦

東京市麹町區永田町
 一丁目三十番地

兼印刷者

東京府平民

大倉保五郎

東京市日本橋區
 通壹丁目十九番地

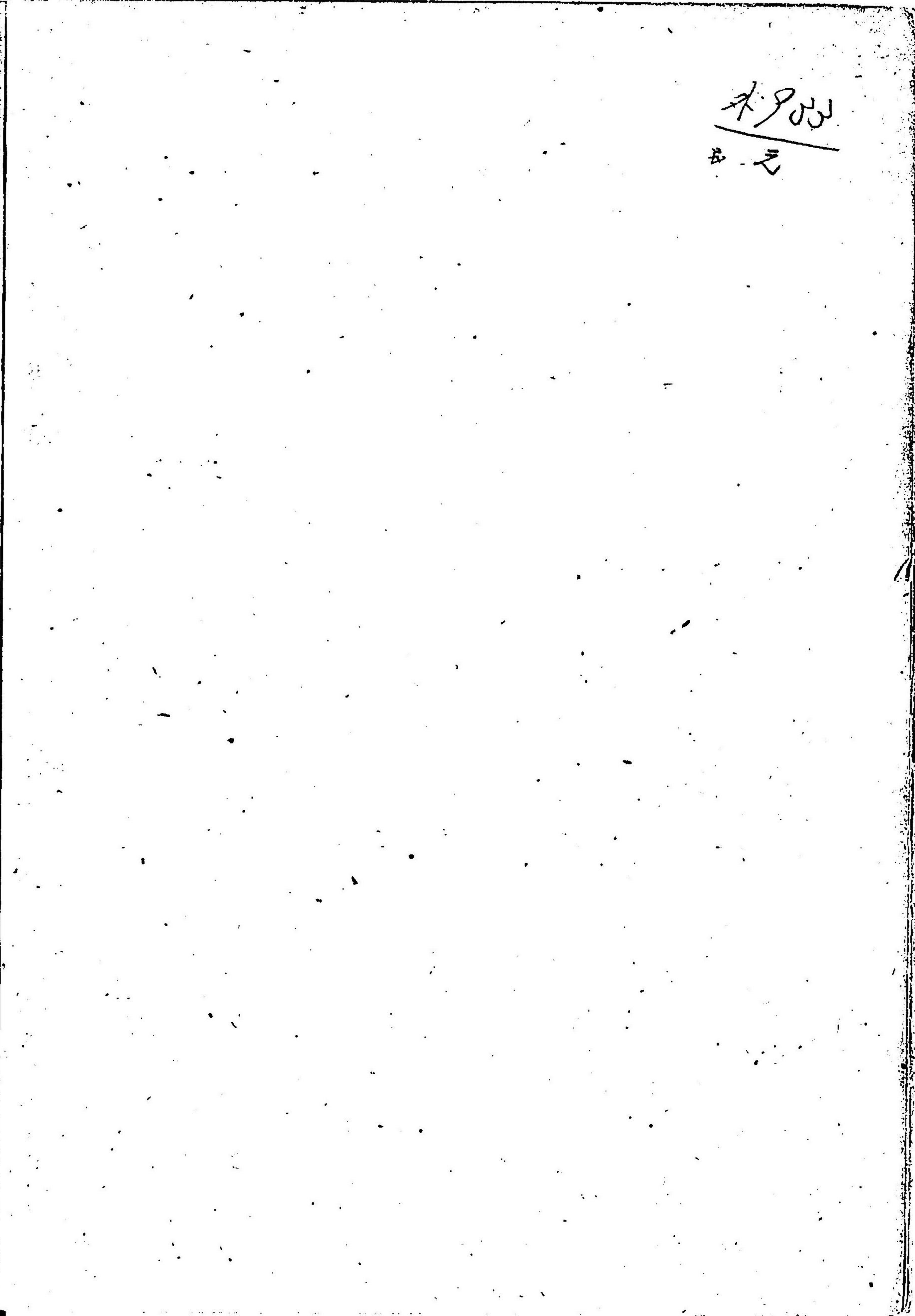
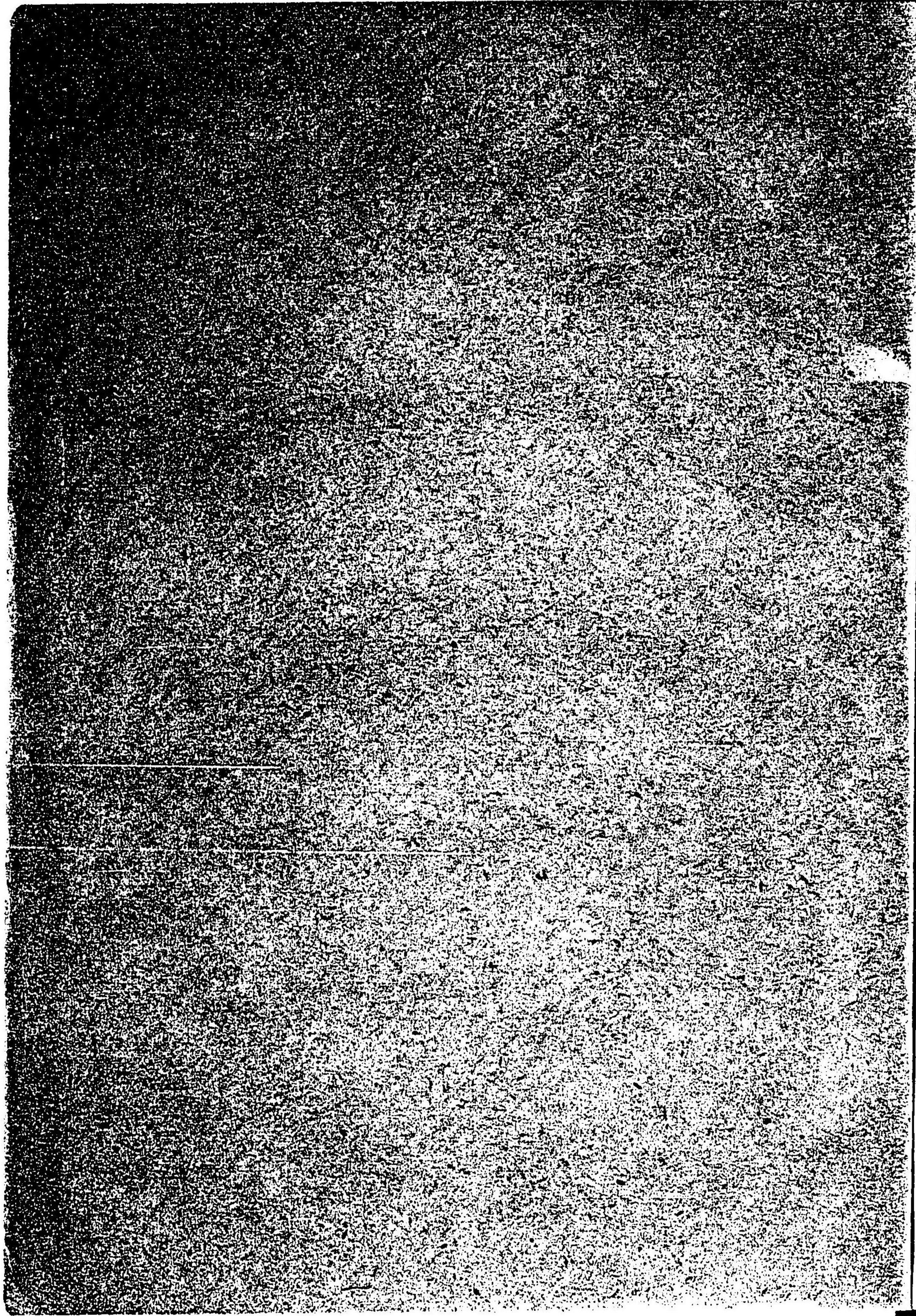
◎地方賣捌所

橫濱辨天通四丁目	丸善書店	肥前佐賀伯山町	河內壯助
同 伊勢崎町貳丁目	松泉堂	鹿兒島仲町	吉田幸兵衛
大坂市南久寶寺町四丁目	前川善兵衛	名古屋市本町貳丁目	河瀨代助
京橋市寺町通四條	田中治兵衛	同 玉屋町參丁目	片野東四郎
伊勢國津市大門町	川島九右衛門	同 鐵炮町參丁目	三輪文次郎
越後國長岡表四ノ町	目黒本店	水戸市上市和泉町	川又銀三
同 三ノ町	上田屋書店	羽後國秋田市菊町	成見清兵衛
同 水原	西村六平	羽前國山形七日町	五十嵐太右衛門
加州金澤片町	益知館	信州長野善光寺	西澤喜太郎
越中富山西町	大橋甚吾	同 松本深志町	水琴堂書店
同 東四十物町	中田書店		
同 西町	守川吉兵衛		
神戸市榮町	熊谷久榮堂		
肥後國熊本新貳丁目	長崎次郎		

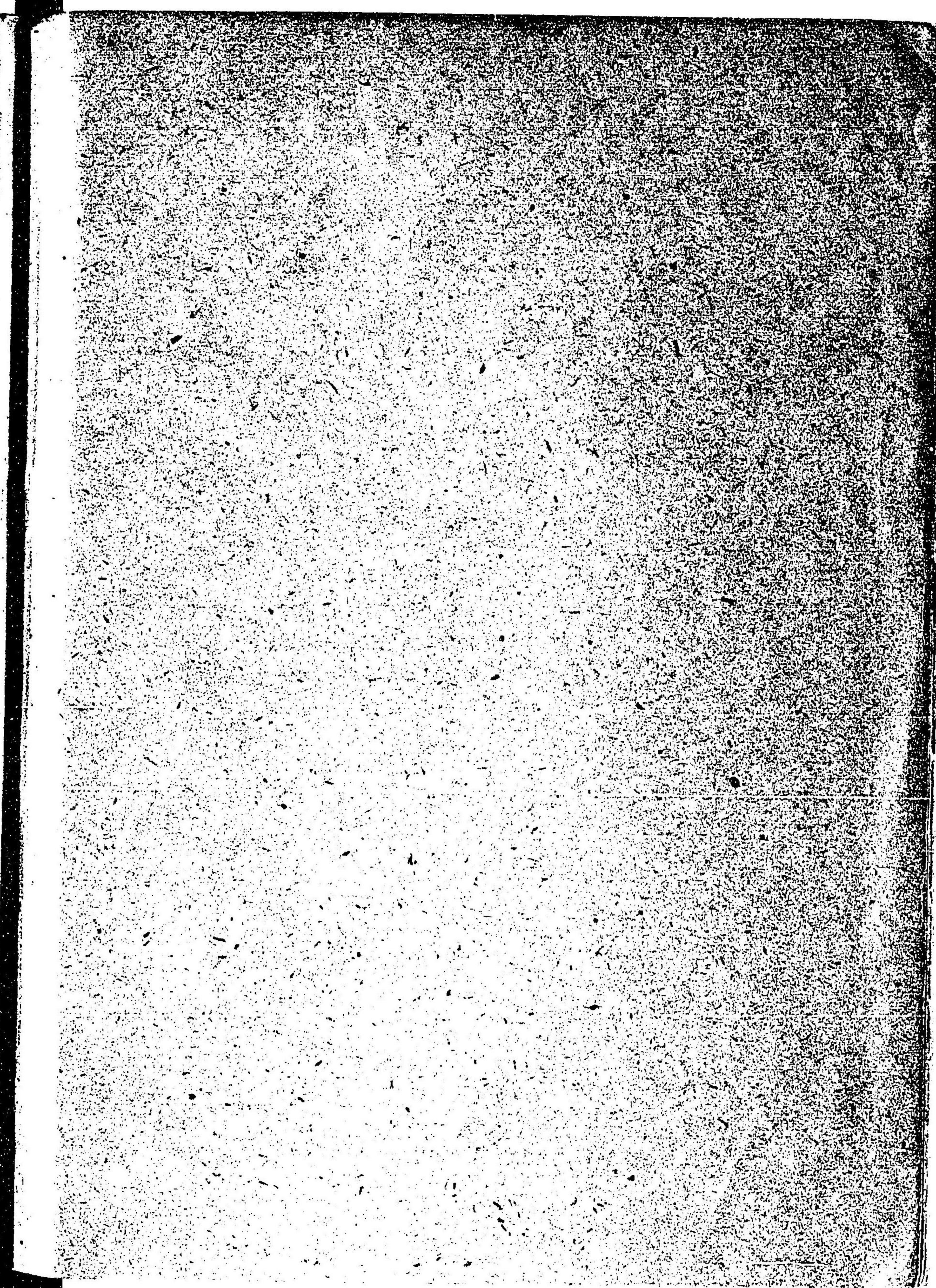
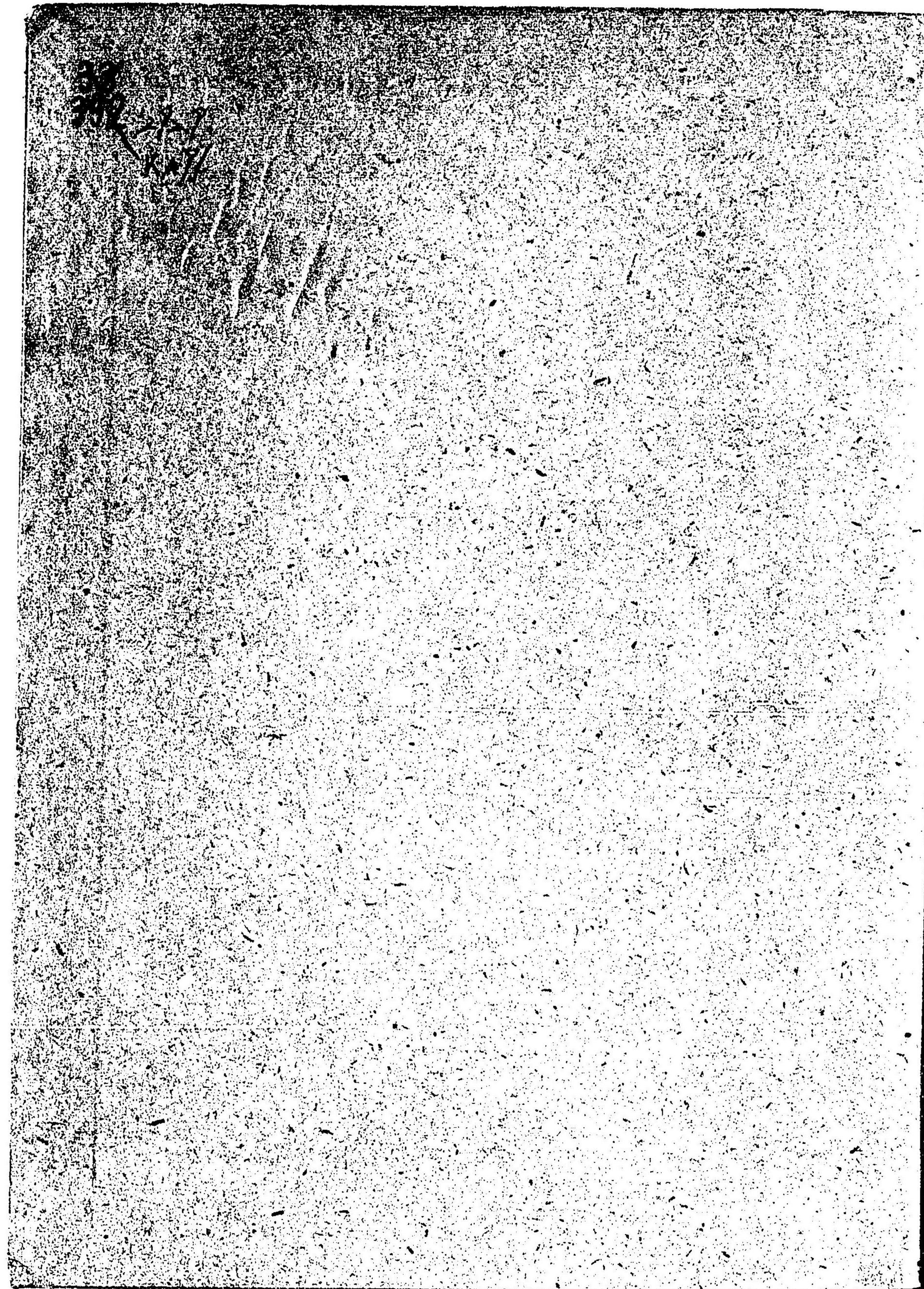
933

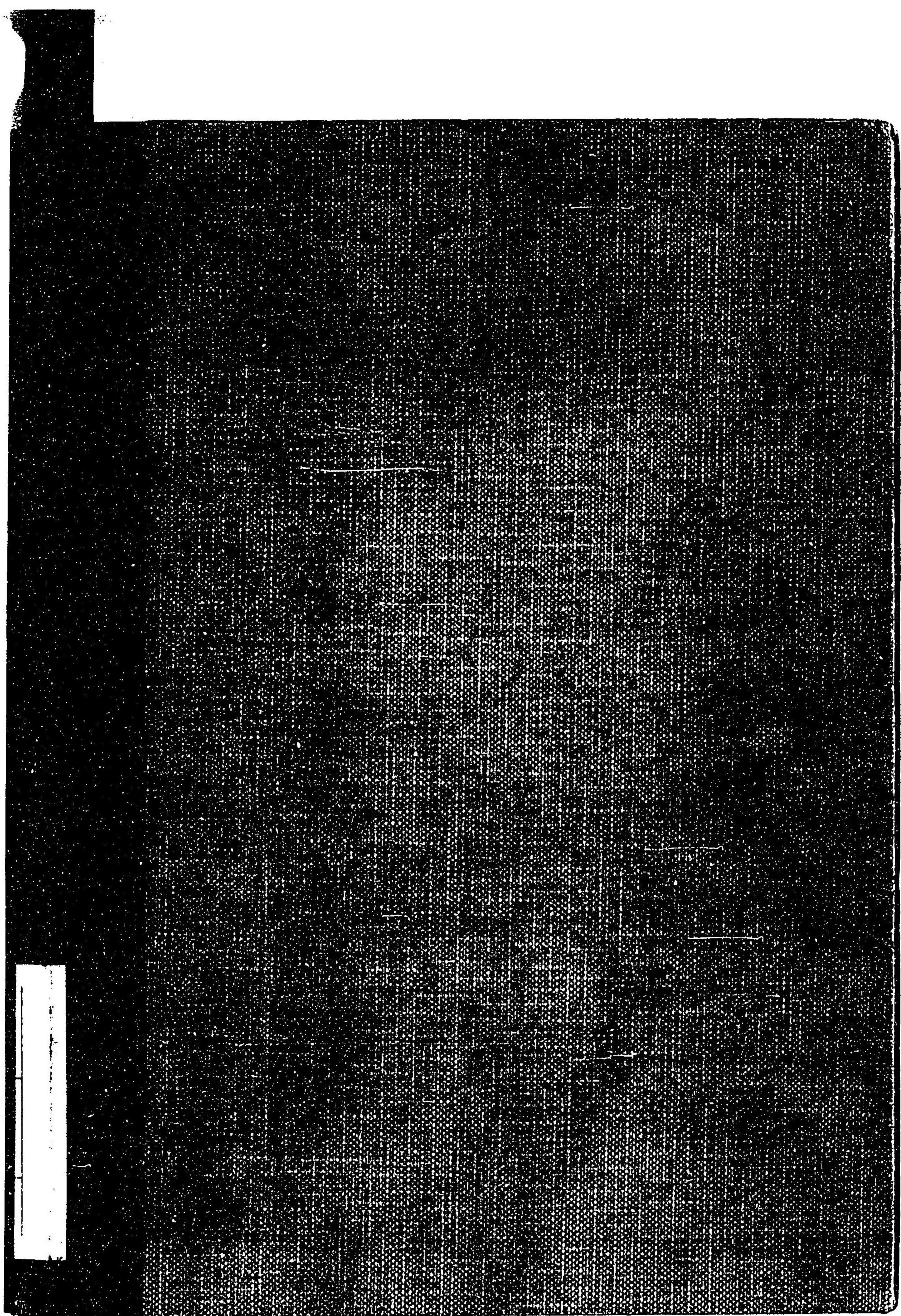
(誤 正)

丁數	行數	正誤
一	五	實
一	七	勿
一	八	燦
六	七	鮮
八	一	噪
八	八	度
一〇	二	ナ
一〇	一七	スハ術
一一	四	ナ
一四	一四	ルイ、ハ、ローフ
一五	七	停
一七	六	拓
二〇	七	氏
二〇	九	飲水ノ二字ノ間ニ川ノ字ヲ脱ス
二〇	一一	ニ
二二	一六	在日本在留人
三〇	三	上
三一	八	浦湖、斯德ノ四字ノ下ニ市ヲ脱ス
三一	一	別
三四	一〇	遅
三七	一八	木
三八	三	ゼ
三八	三	ゼ
三八	四	ゼ
四〇	三	頻
四一	二	救
四一	二	藍
四一	二	傳
四一	一六	シ
四六	六	ン
五〇	一三	着手ノ二字ノ下ニシヲ脱ス
六〇	三	散
六二	一三	曲馬ノ二字ノ下ニ師ヲ脱ス
六八	七	一八ノ數字ノ下ニ九ヲ脱ス
六八	一四	スフコエ
七〇	一	テ
七二	一五	四、奴
七二	一五	四、分



木戸
元





292.9
KA94
⑦

026713-000-3

292.9-Ka94ウ

浦潮斯徳

川上 俊彦/著

M25

ADD-0409



25.12.22

2930
元